

2020 年度

琉球大学島嶼地域科学研究所 所報

RIIS Annual Report 2020



島嶼地域科学研究所

Research Institute for Islands and Sustainability

目次

Index

2020年度所報の発刊にあたって	1
I. 組織	3
1. 組織構成図	4
2. 運営組織	5
(1) 研究所会議	
(2) 所内委員会組織	
- <i>Okinawan Journal of Island Studies</i> 編集委員会	
- 『島嶼地域科学』編集委員会	
(3) 協議委員会	
(4) 共同利用・共同研究運営委員会	
3. 構成員	7
(1) 専任・併任教員	
(2) 客員研究員	
(3) ポスドク研究員	
II. 研究事業等	9
1. 研究プロジェクト・事業	
(1) 文部科学省概算要求プロジェクト	
『島嶼地域科学の分野横断型研究展開による国際的共同研究拠点形成』	10
(2) 日本学術振興会課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業	
『対話型アーカイブズによる新たな「島嶼の知」の創出に基づく島嶼地域科学の体系化』	13
2. 公募型共同研究・個人型共同利用	14
3. 出版物	15
(1) 書籍	
・ <i>The Challenges of Island Studies</i>	15
(2) 定期刊行物（ジャーナル・学術雑誌）	
・ <i>Okinawan Journal of Island Studies</i> Vol. 2	16
・ 『島嶼地域科学』 創刊号	18
4. 研究成果の発信と普及	19
(1) セミナー・シンポジウム等	19

・ RIIS レクチャーシリーズ 2020 (第 1-8 回)	19
・ 島嶼研究の未来へ向けて：架橋する国際的若手研究 2021(TFIS2021)	21
・ レジリエンス&バイタリティ勉強会 (第 1-8 回)	22
(2) 研究資源データベース	24
(3) 共通教育科目「島嶼地域科学入門」	25
III. 教員の研究活動と成果	27
1. 研究業績 (専任・併任教員)	28
原著論文、書籍、その他 (資料、解説、雑文、新聞・雑誌への投稿等)、 招待講演、学会発表、表彰・受賞等	
2. 教育活動 (専任教員)	36
学部教育、大学院教育	
3. 社会連携 (専任教員)	39
社会活動・地域貢献 (学外団体委員等)、国際活動・国際協力等	
IV. 外部資金等研究費獲得状況	41
科学研究費助成事業, その他の競争的資金, 受託研究	
V. 研究所運営	47
1. 研究所会議	48
・ 2020 年度の開催状況	
2. 所内委員会組織	50
・ <i>Okinawan Journal of Island Studies</i> 編集委員会	
・ 『島嶼地域科学』 編集委員会	
3. 協議委員会	52
4. 共同利用・共同研究運営委員会	52
5. 専任教員ミーティング	53
6. 広報	55
付属資料	57
1. RIIS レクチャーシリーズ 2020 ポスター	
2. 島嶼研究の未来へ向けて：架橋する国際的若手研究 2021(TFIS2021)ポスター	

2020 年度所報の発刊にあたって

2020 年度島嶼地域科学研究所所報の発刊にあたり、ご挨拶申し上げます。

島嶼地域科学研究所（Research Institute for Islands and Sustainability）となって3年目を迎えたこの年、世界的な新型コロナウイルス感染拡大状況が年度を通して続いたことで、私どもは自らの研究活動に強い制限をかけました。島嶼地域には医療体制が十分とはいえない地域も多く、ウイルスに対して脆弱であることは否めません。そのような島々に研究目的で入り、住民の方々に不安をさせることがあってはなりません。ましてや、私どもが新型コロナウイルスの感染拡大に組み込むことがあってはなりません。私どもは、島嶼地域研究者として自らを律し、島嶼地域における調査・研究活動を必要最小限にとどめました。

そのため、学外の島嶼地域研究者との連携拡充を目的とした公募型の共同利用・共同研究事業（2018年度～）は残念ながら実施を見送りました。この取組は島嶼研究の国内外における強化と、同研究の世界的拠点としての役割を本研究所が担うことを目指すもので、本研究所の事業のなかでも非常に重要な位置づけにあります。2021年度以降に再開できることを願っています。

それでも本研究所として、自律的・持続的島嶼地域社会の形成に寄与すべき、新型コロナウイルス感染拡大状況下においても実行可能な研究事業は、躊躇しないどころか、積極的に推し進めてまいりました。まず2020年度に2年目を迎えた文部科学省機能強化経費による事業「島嶼地域科学の分野横断型研究展開による国際的共同研究拠点形成」（2019～2021年度）があります。学内の多くの研究者の参加のもと、複数の研究ユニット（「防災」「コミュニティ」「軍事基地と環境」「歴史清算」「保健」）を設置し、これまでに収集してきた研究データや島嶼に赴かず遠隔で可能な調査によって得た情報によって多様な研究を推進してきました。さらに、オンラインを用いて、海外の研究者によるレクチャーシリーズを積極的に開催したことで、より多くの研究成果から刺激を受けることが可能となり、私どもの研究の国際的展開をも促進しました。

この2020年度には、新たな研究プロジェクトを始めることもできました。日本学術振興会の「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」（領域開拓プログラム）に採択された「対話型アーカイブズによる新たな『島嶼の知』の創出に基づく島嶼地域科学の体系化」（2020～2022年度）です。研究者による学術的調査とそれへの地域（住民と行政）の直接的関与に基づくアーカイブズを形成し、それを地域住民、行政、研究者が協働し対話する動的プラットフォームとして稼働させることで、島嶼の知を意識的に結集し地域課題の解決に導く方法論の構築に向けた調査研究と議論を積み重ねていくものです。

2019年度に発行を開始した *Okinawan Journal of Island Studies (OJIS)* と和文誌『島嶼地域科学』は広く国内外から投稿を受け付ける査読誌です。前者は世界の著名な島嶼地域研究者をアドバイザーボードに迎え、2020年度3月に第2号を発刊しました。後者は2020年度中に論文投稿と査読を進め、この所報が公表される頃には第2号がオンラインジャーナルとして J-STAGE にて刊行される予定です。両誌とも電子版で公開しており（*OJIS* は紙媒体も発行しています）、世界に向けて発信しています。

組織としては、教授2名の定年退職に伴い、新たに教授1名と講師1名を迎えました。これにより2020年度の体制は教授3名、准教授1名、講師1名、特命助教1名となりました。また、他学部から本研究所の研究や運営に参画している27名（2020年度）の併任教員の尽力によって、研究所の活動は支えられています。こうした全学的な協力体制によって、研究所としての実績を積み重ねることができ

ています。

多様で複雑な島嶼という地域を研究対象とするにあたり、トランスディシプリナリー（超学際）な研究態度が必要と考えています。複数の学問分野の理論や方法論を統合し、さらに非専門家（地域住民等）の島嶼地域における経験知や生活知をも統合していくことで、島嶼の実際と将来を追究できると考えます。多分野・多組織による連携を通して、「島嶼地域科学」の確立に向けて邁進する所存です。引き続き島嶼地域科学研究所に対するご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

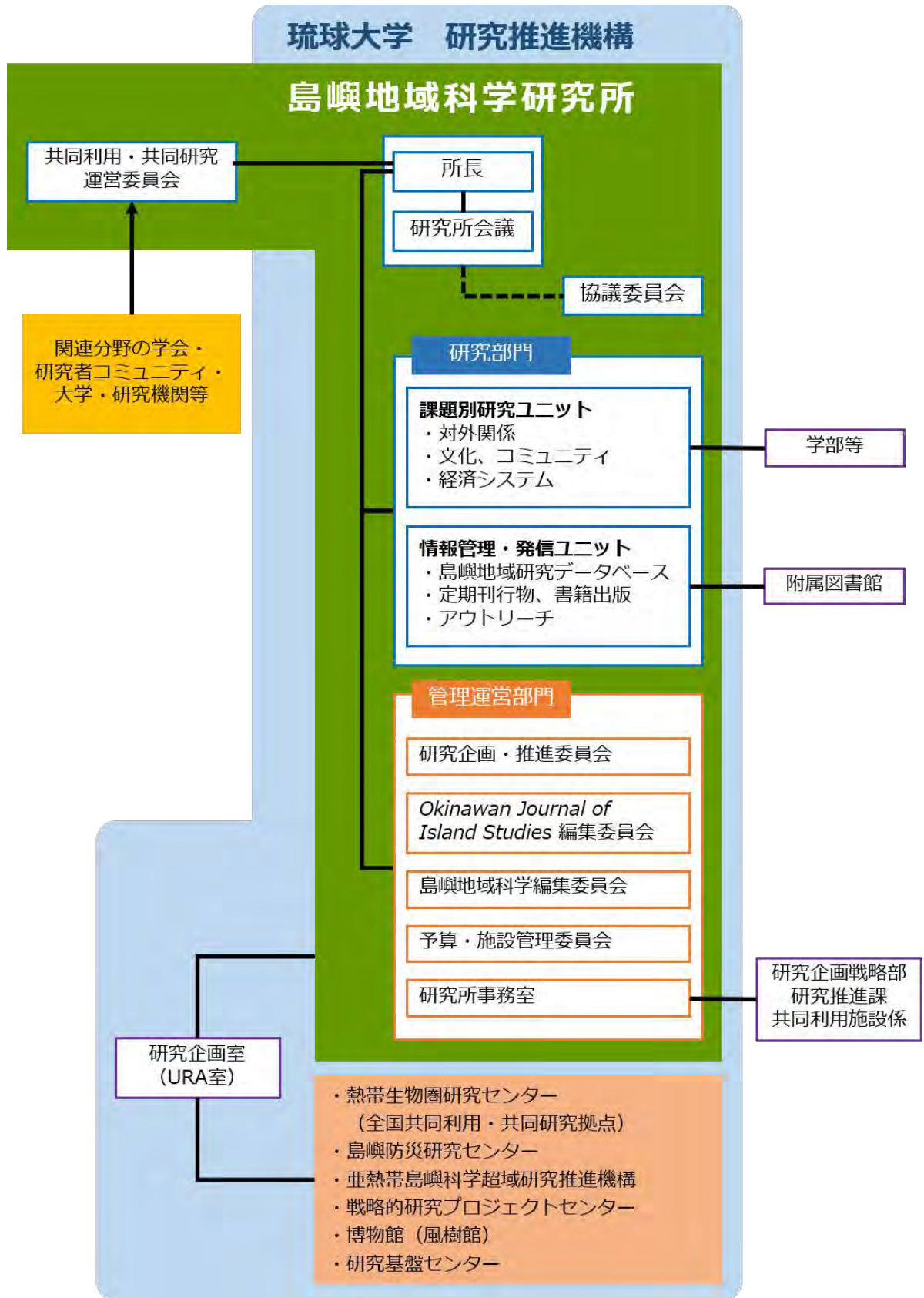
2021年10月1日

国立大学法人 琉球大学
研究推進機構 島嶼地域科学研究所
所長 波多野 想

I. 組織

1. 組織構成図
2. 運営組織
3. 構成員

1. 組織構成図



2. 運営組織

(1) 研究所会議

藤田 陽子（島嶼地域科学研究所／研究所長・教授） 議長
波多野 想（島嶼地域科学研究所／研究副所長・教授）
池上 大祐（国際地域創造学部／准教授）
喜納 育江（国際地域創造学部／教授）
宜野座 綾乃（島嶼地域科学研究所／准教授）
佐藤 崇範（島嶼地域科学研究所／特命助教）
鳥山 淳（島嶼地域科学研究所／教授）
宮内 久光（国際地域創造学部／教授）
山極 海嗣（島嶼地域科学研究所／講師） 2020年12月1日着任

(2) 所内委員会組織

Okinawan Journal of Island Studies 編集委員会

宜野座 綾乃（島嶼地域科学研究所／准教授） 編集長
波多野 想（島嶼地域科学研究所／研究副所長・教授） 編集委員
宮國 薫子（国際地域創造学部／准教授） 編集委員
山里 絹子（国際地域創造学部／准教授） 編集委員
Timothy Kelly（名桜大学非常勤講師） 編集委員

『島嶼地域科学』編集委員会

鳥山 淳（島嶼地域科学研究所／教授） 編集長
宮内 久光（国際地域創造学部／教授） 編集委員
池上 大祐（国際地域創造学部／准教授） 編集委員

(3) 協議委員会（名簿順）

藤田 陽子（島嶼地域科学研究所／教授・所長） 1号委員・委員長
波多野 想（島嶼地域科学研究所／教授・副所長） 2号委員
宜野座 綾乃（島嶼地域科学研究所／准教授） 3号委員
本村 真（人文社会学部／教授） 4号委員
金城 尚美（国際地域創造学部／教授） 4号委員
花木 宏直（教育学部／准教授） 4号委員
傳田 哲郎（理学部／教授） 4号委員
小林 潤（医学部／教授） 4号委員
長山 格（工学部／准教授） 4号委員
大田 伊久雄（農学部／教授） 4号委員

任期：2020年4月1日～2022年3月31日

(4) 共同利用・共同研究 運営委員会（名簿順）

藤田 陽子（島嶼地域科学研究所／研究所長・教授） 1号委員・委員長

鳥山 淳（島嶼地域科学研究所／教授） 2号委員

酒井 一彦（熱帯生物圏研究センター／教授） 3号委員

久万田 晋（沖縄県立芸術大学附属研究所／教授） 4号委員

須藤 健一（堺市博物館／館長） 4号委員

中俣 均（法政大学文学部／教授） 4号委員

任期：2020年4月1日～2022年3月31日

3. 構成員

(1) 専任・併任教員

	<u>専門分野</u>	<u>(所属／職名)</u>
<u>所長</u>		
藤田 陽子 (ふじた ようこ)	環境経済学	(島嶼地域科学研究所／教授)
<u>副所長</u>		
波多野 想 (はたの そう)	建築史学・文化遺産学・ランドスケープ研究	(島嶼地域科学研究所／教授)
<u>専任教員</u>		
鳥山 淳 (とりやま あつし)	沖縄現代史	(島嶼地域科学研究所／教授)
宜野座 綾乃 (ぎのざ あやの)	アメリカ研究・ジェンダー学・軍事主義の文化研究	(島嶼地域科学研究所／准教授)
山極 海嗣 (やまぎわ かいし)	考古学・人類学	(島嶼地域科学研究所／講師)
佐藤 崇範 (さとう たかのり)	アーカイブズ学	(島嶼地域科学研究所／特命助教)
<u>併任教員</u>		
池上 大祐 (いけがみ だいすけ)	西洋史学	(国際地域創造学部／准教授)
石原 昌英 (いしはら まさひで)	社会言語学・言語政策	(国際地域創造学部／教授)
稲村 務 (いなむら つとむ)	社会人類学・比較民俗学	(国際地域創造学部／教授)
大島 順子 (おおしま じゅんこ)	地域・環境教育論	(国際地域創造学部／准教授)
大湾 知子 (おおわん ともこ)	成人・がん看護学	(医学部／准教授)
瀬口 浩一 (おそぐち こういち)	財政学	(国際地域創造学部／教授)
越智 正樹 (おち まさき)	観光社会学・農村社会学・地域社会学	(国際地域創造学部／教授)
漢那 洋子 (かんな ようこ)	光化学・有機物理化学	(理学部／准教授)
喜納 育江 (きな いくえ)	アメリカ文学・ジェンダー研究	(国際地域創造学部／教授)
金城 ひろみ (きんじょう ひろみ)	中国語学	(人文社会学部／准教授)
小林 潤 (こばやし じゅん)	国際保健	(医学部保健学科／教授)
杉村 泰彦 (すぎむら やすひこ)	農業経済学	(農学部／准教授)
鈴木 規之 (すずき のりゆき)	国際社会学	(人文社会学部／教授)
淡野 将太 (たんの しょうた)	教育心理学	(教育学部学校教育／准教授)
當山 奈那 (とうやま なな)	琉球語学	(人文社会学部／准教授)
豊見山 和行 (とみやま かずゆき)	琉球史学	(人文社会学部／教授)
内藤 重之 (ないとう しげゆき)	農業経済学	(農学部／教授)
名護 麻美 (なご あさみ)	文化人類学	(グローバル教育支援機構／特命講師)

野入 直美 (のいり なおみ)	社会学	(人文社会学部/准教授)
廣瀬 孝 (ひろせ たかし)	自然地理学・水文地形学	(国際地域創造学部/教授)
古川 卓 (ふるかわ たかし)	臨床心理学	(保健管理センター/教授)
宮内 久光 (みやうち ひさみつ)	人文地理学	(国際地域創造学部/教授)
宮里 厚子 (みやざと あつこ)	ヨーロッパ文化 フランス文学	(国際地域創造学部/准教授)
本村 真 (もとむら まこと)	地域福祉学	(人文社会学部/教授)
矢野 恵美 (やの えみ)	刑法	(大学院法務研究科/教授)
山里 絹子 (やまざと きぬこ)	アメリカ研究	(国際地域創造学部/准教授)
山城 新 (やましる しん)	アメリカ文学	(国際地域創造学部/教授)

(2) 客員研究員

氏名	所属	職名	受入教員	期間
Daniel Akihiro Iwama	University of California, Los Angeles	Doctoral Student	宜野座 綾乃	2019/9/13-2021/9/12
我部 政明	琉球大学	名誉教授	藤田 陽子	2020/4/1-2021/3/31
狩俣 繁久	琉球大学	名誉教授	當山 奈那	2020/4/1-2021/3/31

(3) ポスドク研究員

氏名	所属	職名	受入教員	期間
前田 勇樹	琉球大学島嶼地域科学研究所	ポスドク研究員	宜野座 綾乃	2020/7/20-2021/3/31
森 啓輔	琉球大学島嶼地域科学研究所	ポスドク研究員	宜野座 綾乃	2020/8/1-2021/3/31

Ⅱ . 研究事業等

1. 研究プロジェクト・事業
2. 公募型共同研究・個人型共同利用
3. 出版物
4. 研究成果の発信と普及

1. 研究プロジェクト・事業

(1) 文部科学省 概算要求プロジェクト

『島嶼地域科学の分野横断型研究展開による国際的共同研究拠点形成』

(2019～2021 年度)

事業目的

本事業の目的は次の2点である。第1に、先行事業で積み上げた国内外の研究者との共同利用・共同研究によって体系化された島嶼地域科学の体制を基盤とし、島嶼地域科学の国際的共同研究拠点としての展開を図ることを目的とする。第2に、2016年度から取り組んで来た「自律型島嶼社会の創生に向けた<島嶼地域科学>の体系化」において、本学の強みである琉球・沖縄研究が主導となり導き出した、海外の島嶼地域と共有性の強い要素であり、かつ多分野共通の課題としての「レジリエンス」と「バイタリティ」に着目し、島嶼地域課題解決のための分野横断型研究を国際的に展開することを目的とする。この展開によって、これらの概念を学際的な課題検証の共通の切り口とし、現在国内外の島嶼地域が抱える特殊な課題を多分野融合的な視点から検証することで、普遍的な方法論と理論の構築を図り、国際的にも通用するモデルとして発展させる。

本事業における「レジリエンス」「バイタリティ」とは、地理、政治、社会、経済、文化、教育、歴史などの研究分野において、島嶼であるがゆえに直面する「辺境性」といった課題に対して、島嶼の主体性を保持し、地域の文化や共同体の存続を可能にしてきた場所の持つ力であると同時に、その場所に生きる人々の力も意味する。本事業では、この力を、①変化に対応する力、②既成概念にとらわれずに限られた状況の中で最良の選択が何かを判断する力、③島嶼の主体性を担保する力、と捉え、島嶼地域においてこれらを醸成・増強する方策について検討する。

研究体制

この事業を遂行するにあたり、実施主体の一つである島嶼地域科学研究所では先行事業を通して海外との連携を拡充するための基盤を整えてきた。例えば、2017年度に本学で開催した RETI (Réseau d'Excellence des Territoires Insulaires、島嶼大学間ネットワーク)国際会議や、国際島嶼学会への参加、国際シンポジウムの定期的開催を通し形成された海外の島嶼地域研究機関などとのネットワークがある。また、その成果を、本研究所発行の国際定期刊行物である *International Journal of Okinawan Studies* (2010年3月以来通巻12巻発行) や、2009年度の設立以来14冊(内、英語書籍1冊)にのぼる書籍の出版により国内外に発信してきた実績があり、本事業を遂行する体制が十分に整っている。

プロジェクトメンバー

プロジェクトリーダー

宜野座 綾乃（島嶼地域科学研究所／准教授）

プロジェクト内ユニット構成

○防災ユニット

藤田 陽子（ユニットリーダー 島嶼地域科学研究所／教授）

伊東 孝（工学部／教授）

Castro Juan Jose（工学部／教授）

豊見山 和行（人文社会学部／教授）

渡辺 信（熱帯生物研究センター／准教授）

前田 勇樹（島嶼地域科学研究所／ポスドク研究員）

○保健ユニット

小林 潤（ユニットリーダー 医学部／教授）

當山 裕子（医学部／講師）

高原 美鈴（医学部／助教）

斉藤 美加（医学部／助教）

和氣 則江（保健学研究科／講師）

竹内 理恵（保健学研究科／特命講師）

○コミュニティユニット

波多野 想（ユニットリーダー 島嶼地域科学研究所／教授）

喜納 育江（国際地域創造学部／教授）

宜野座 綾乃（島嶼地域科学研究所／准教授）

山里 絹子（国際地域創造学部／准教授）

森 啓輔（島嶼地域科学研究所／ポスドク研究員）

○軍事と環境ユニット

池上 大祐（ユニットリーダー 国際地域創造学部／准教授）

山本 章子（人文社会学部／准教授）

淡野 将太（教育学部／准教授）

名護 麻美（グローバル支援機構／特命講師）

○歴史清算ユニット

鳥山 淳（ユニットリーダー 島嶼地域科学研究所／教授）

呉 世宗（人文社会学部／教授）

○アーカイブズ担当

佐藤 崇範（島嶼地域科学研究所／特命助教）

事業予算額

2019年度 13,220千円

2020年度 13,220千円

2021年度 13,220千円（予定）

2021年度以降の展開

- 国際シンポジウム「島嶼地域におけるレジリエンス・バイタリティ」を開催し、国内外の研究者との知見交流を行い、ネットワーク形成の拡充を図る。
- ポスドク研究員を2名採用し、若手研究者の育成に寄与する。
- ポスドク研究員を中心に若手国際島嶼研究会を開催する。
- 引き続き、レクチャーシリーズでは国内外の島嶼研究者を招聘し知見を深める。
- 引き続き、プロジェクトメンバーを中心とした勉強会を開催し、研究成果の報告を通して、研究のさらなる発展および深化に努める。
- レジリエンス・バイタリティ学術文献リストの作成：本プロジェクトの鍵概念であるレジリエンスとバイタリティをテーマとした学術論文や資料の収集および、文献リストの作成を行い、公開にむけて取り組む。
- プロジェクトで行なった個人または共同研究の成果を、英文論集としてまとめ出版する。
- 一般、高校生、大学生を対象とした、島嶼地域科学のテキストを出版する。

(2) 日本学術振興会 課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業
『対話型アーカイブズによる新たな「島嶼の知」の創出に基づく島嶼地域科学の体系化』
(2020～2022 年度)

事業概要

本研究所は、日本学術振興会の『課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業』（領域開拓プログラム）に採択され、「対話型アーカイブズによる新たな「島嶼の知」の創出に基づく島嶼地域科学の体系化」の取り組みを2020年度より開始した。日本学術振興会の同事業は、「①諸学の密接な連携によりブレイクスルーを生み出す共同研究、②社会的貢献に向けた共同研究、③国際共同研究を推進するため」のものであり、なかでも領域開拓プログラムは「異なる学問分野の研究者の参画を得て、新たな研究領域への予想外の飛躍をもたらすような課題の追求や方法論の継続的な改良を目指す」ものである（詳細は、<https://www.jsps.go.jp/kadai/>を参照のこと）。

これに対して、本研究所は島嶼の劣位性ではなく、多様性・結節性・独自性という優位性概念によって島嶼に新たな価値観を付与することで、従前の島嶼地域研究にパラダイムシフトをもたらし、地域課題を自律的に解決し持続的に発展するための学術的方法論を創出することを目指す。特に、研究者による学術的調査とそれへの地域（住民と行政）の直接的関与に基づくアーカイブズを形成し、それを地域住民、行政、研究者が協働し対話する動的プラットフォームとして稼働させることで、島嶼の知を意識的に結集し地域課題の解決に導く方法論の構築に向けた調査研究と議論を積み重ねていく。

プロジェクトメンバー

波多野 想（島嶼地域科学研究所/教授）
佐藤 崇範（島嶼地域科学研究所/特命助教）
藤田 陽子（島嶼地域科学研究所/教授）
鳥山 淳（島嶼地域科学研究所/教授）
宜野座 綾乃（島嶼地域科学研究所/准教授）
山極 海嗣（島嶼地域科学研究所/講師）

事業予算額

2020年度 2,847千円
2021年度 5,850千円
2022年度 5,850千円（予定）

2021年度以降の展開

- 宮古島において協働する集落を選定し、当地における研究データの収集とアーカイビング活動を進める。
- 人文学・社会科学における研究データ管理のあり方を検討する。
- 研究成果を学会等で発表する。

2. 公募型共同研究・個人型共同利用

島嶼地域科学研究所では、島嶼地域の研究に取り組む研究者とそのアイデアを広く募り、多様な島嶼地域研究を展開するための共同利用・共同研究を推進している。2016年度に公募型共同研究（複数名による共同研究、国内および海外）を開始し、加えて2018年度より個人型共同利用（個人による調査研究）を進めてきた。これらの取組は島嶼研究の国内外における強化と、同研究の世界的拠点としての役割を本研究所が担うことを目指すものである。2019年度までに、公募型共同研究総計26件（継続を含む）、個人型共同利用総計5件を採択してきた。

しかし、世界的な新型コロナウイルス感染拡大状況を鑑み2020年度については募集を見合わせた。新型コロナウイルスによる感染被害についてはワクチンなどの普及により一定の抑制も予測されるため、2021年度には募集を再開する予定である。

3. 出版物

(1) 書籍

The Challenges of Island Studies.

Ayano Ginoza (Eds.). 2020. Springer. ISBN:978-981-15-6287-7.

About this book



This book places islanders' struggles and knowledge at the forefront of island studies. Written by experts from diverse fields and locations, it covers a wide range of topics, from the history of island studies to critical ocean studies. In remapping the field of island studies from Okinawa, an emerging hub of community-based knowledge and interdisciplinary collaboration between leading critics and theorists in geography, linguistics, tourism, literature, international relations, and peace studies reveals the challenges for the future of island studies.

The book consists of two parts: the first offers a collection of individual contributions that demonstrate the vital role that the field's interdisciplinarity can play in creating bridges between the political and social issues islanders and the islands face and the disciplines involved. The second part provides a cross-disciplinary discussion between the authors and scholars of island studies in Okinawa, including local experts, and suggests new ways to think about the future of island studies that are intricately linked to islanders' agency, preservation of languages and heritage, and the security of the islands. As such, the book directly addresses the current state of the field as well as with its future.

INDEX

Ayano Ginoza

An Archipelagic Enunciation from Okinawa Island

Alexander, Ronni

Islands as Safe Havens: Thinking About Security and Safety on Guåhan/Guam

Elizabeth DeLoughrey

Island Studies and the US Militarism of the Pacific

James E. Randall

Island Studies Inside (and Outside) of the Academy: The State of this Interdisciplinary Field

So Hatano

The Perspective of Cultural Heritage/Cultural Landscape in Critical Island Studies

Shigehisa Karimata

The Possibilities of Phylogenetic Tree Studies in Ryukyuan Languages Research

Ayano Ginoza (et al.)

Prospects for Critical Island Studies

(2) 定期刊行物 (ジャーナル・学術雑誌)

Okinawan Journal of Island Studies (OJIS), vol. 2



国際学術査読誌 *Okinawan Journal of Island Studies (OJIS)* は、9年間、国際沖縄研究所のシグニチャー・ジャーナルとして沖縄研究の国際的展開に寄与した *International Journal of Okinawan Studies* の業績を引き継ぎ、島嶼や島嶼性に着目した多彩な研究成果を、沖縄から世界に向けて発信する新ジャーナルとして、2019年度よりスタートした。

本誌は、人文・社会科学を中心とした国内外の島嶼や島嶼性に着目した英語による学術論文と書評を募集している。専門分野ごとに国内外の査読者による厳密な査読の後、優れた論文を掲載することで、島嶼地域科学の学術分野への国際的な寄与を目指している。特別セクションでは、インタビュー、研究ノート、詩や散文も掲載する。また、冊子体に加え、本研究所より発信する研究を介し、より多くの読者との議論の場を形成する目的で、オープンアクセスを可能とした。

2021年3月に発行された Vol. 2 の目次は以下の通りである。なお、投稿募集や投稿規定については島嶼地域科学研究所のホームページに掲載している (<http://riis.skr.u-ryukyu.ac.jp/publication/ojis>)。

Okinawan Journal of Island Studies (OJIS), Vol.2 (March 2021)

Editor's Note

Ayano Ginoza

Special Topics

Adam Grydehøj

An Expanding World of Islands: The Emergence of Chinese Island Studies

Evangelia Papoutsaki and Sueo Kuwahara

Akina: An Ecocultural Portrait of an Island Community through the Photographic Lens of Futoshi Hamada

Yukiko Toyoda and Masaaki Gabe

The Precarious Linkage between Trade and Security: A Trade-Off Involving Textile Limits and the Reversion of Okinawa?

Paper

Daniel Iwama

Tides of Dispossession: Property in Militarized Land and the Coloniality of Military Base Conversion in Okinawa

Book Review

Keisuke Mori

Kozue Uehara. *Kyōdō no Chikara*

Forum: Miduri**Essay**

Shō Tanaka

Homecoming

Interview

Margo Okazawa-Rey, Suzuyo Takazato, Lisa Linda Natividad, Ayano Ginoza, Kim Compoc

Okinawa, Guåhan and Hawai'i: Feminist Insights into the Linkages between Colonization, Militarism and COVID-19

Translation

Ikue Kina

Excerpts from Kotoba no umareru basho [The Place Where Words Are Born] by Tami Sakiyama

Contributors



『島嶼地域科学』は島嶼地域科学研究所が発行する査読付きのオープンアクセスの学術雑誌である（J-stageにて公開）。本誌では島嶼に関する様々な研究についての論文や研究ノート、資料紹介といった原稿を幅広く募集し、1年に1回刊行している（掲載言語は日本語）。投稿募集の案内、および投稿規定などについては島嶼地域科学研究所のホームページに掲載している（<http://riis.skr.u-ryukyu.ac.jp/publication/jrsi>）。

2020年度は2020年9月に創刊号を発行した。創刊号の目次は以下の通りである。

研究論文

長谷川 秀樹

「ヨーロッパにおける「島嶼地域」の自治権・特別地位について」

佐久間 邦友、高嶋 真之、本村 真

「離島における自治体主導型学習支援事業の現状と課題—沖縄県北大東村「なかよし塾」を事例に—」

石川 恵吉

「村落祭祀をめぐる自治会組織の役割とその歴史的背景—八重山諸島石垣島新川の事例を中心に—」

落合 いずみ

「アタヤル語群の文化的語彙 *Ratəd を再建するまで」

ハイス・ファン＝デル＝ルベ

「沖縄語宜野座惣慶方言の敬語形式」

研究ノート

澤田 聖也

「戦後沖縄における唄者のイメージと役割の変遷—民謡クラブ・民謡酒場という『場』に着目して—」

資料

佐藤 崇範

「ハワイ大学マノア校ハミルトン図書館所蔵の「南洋群島関係資料」について」

4. 研究成果の発信と普及

(1) セミナー・シンポジウム等

RIIS レクチャーシリーズ 2020

島嶼地域研究や関連する分野に携わる外部講師を招聘し、プロジェクトのテーマである「レジリエンス」と「バイタリティ」をテーマにしたレクチャーシリーズを開催した。2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、Web 会議システム Zoom にて行った。

第1回

日時：2020年7月7日（火）15:45～17:15

講師：Godfrey Baldacchino（Professor, University of Malta）

タイトル：“Let's Try Again: Islands, Islanders and Resilience”

主催：島嶼地域科学研究所「島嶼地域科学の分野横断型研究展開による国際的共同研究拠点形成」プロジェクト

第2回

日時：2020年7月20日（月）14:40～16:10

講師：グレッグ・ドボルザーク（早稲田大学・教授）

タイトル：『『マーシャル・アイランド』への再上陸 ～オセアニアにおける日米の軍国主義とマーシャル諸島の人々のレジスタンス』

主催：島嶼地域科学研究所「島嶼地域科学の分野横断型研究展開による国際的共同研究拠点形成」プロジェクト

第3回

日時：2020年9月19日（土）10:00～12:00

講師：Juliann Anesi（Assistant Professor, University of California）

タイトル：“Educating in the Margins: Women’s Activism, Land, and Including Disabled People in Samoan Schools”

主催：島嶼地域科学研究所「島嶼地域科学の分野横断型研究展開による国際的共同研究拠点形成」プロジェクト

第4回

日時：2020年12月7日（月）10:30～12:00

講師：濱田 政則（アジア防災センター・センター長 / 早稲田大学・名誉教授）

タイトル：「自然災害の増大と国土強靱化」

主催：島嶼地域科学研究所「島嶼地域科学の分野横断型研究展開による国際的共同研究拠点形成」プロジェクト

第5回

日時：2020年12月15日（火）16:20～17:50

講師：Hamsu Kadriyan (Associate Professor, Mataram University)

Ernesto R. Gregorio, Jr. (Assistant Professor, University of the Philippines Manila)

Crystal Amiel M. Estrada (Associate Professor, University of the Philippines Manila)

タイトル：“Mid-Term Report of the Research Entitled ‘Island Resilience during COVID-19 Pandemic’”

主催：島嶼地域科学研究所「島嶼地域科学の分野横断型研究展開による国際的共同研究拠点形成」プロジェクト

第6回

日時：2021年2月16日（火）16:20～17:50

講師：宮城 秋乃（日本鱗翅学会会員／日本蝶類学会会員）

タイトル：「北部訓練場返還地の米軍廃棄物・土壌汚染」

主催：島嶼地域科学研究所「島嶼地域科学の分野横断型研究展開による国際的共同研究拠点形成」プロジェクト

第7回

日時：2021年3月4日（木）15:00～16:30

講師：黄 士哲（国立虎尾科技大学・副教授）

タイトル：「レジリエンスと区域の構造化：台湾雲林県建國眷村の保全と活性化の問題について」

主催：島嶼地域科学研究所「島嶼地域科学の分野横断型研究展開による国際的共同研究拠点形成」プロジェクト

第8回

日時：2021年3月5日（金）13:00～14:30

講師：高 誠晩（済州大学・助教授）

タイトル：「済州島と沖縄における『歴史清算』 — 4・3 事件を中心に」

主催：島嶼地域科学研究所「島嶼地域科学の分野横断型研究展開による国際的共同研究拠点形成」プロジェクト

「島嶼研究の未来へ向けて：架橋する国際的若手研究 2021」(TFIS2021)

本研究ウェビナーは、文部科学省概算要求プロジェクト『島嶼地域科学の分野横断型研究展開による国際的共同研究拠点形成』（レジリエンス&バイタリティ）の主催のもと、若手研究者を対象とした国際的な研究ウェビナーとして開催された。島嶼地域を対象に最新の研究を行っている若手研究者および様々な現場で活躍している若手のネットワーキングを目的として企画された国際大会である。

午前の部 基調講演

講師：ウェスリー・イワオ・ウエウンテン(サンフランシスコ州立大学・教授)

タイトル：“Can the Diaspora Sing?: Understanding Tinsagu nu Hana in Diasporic Time and Space”

「ディアスポラは唄うことができるか？ーディアスポリックな時空間における「ていんさぐぬ花」ー」

午後の部 個別報告

報告者：Oshiro Akino (Friedrich-Alexander-Universität Erlangen-Nürnberg)

タイトル：“Farm to Base: Mobilization of Local Population for Military Work in U.S. Occupied Okinawa”

報告者：土井 智義 (日本学術振興会・特別研究員 (東京大学))

タイトル：“Forgetting the Creation of ‘National Subject’ in Postwar Okinawa : From an ‘Alien’ Perspective”

報告者：山城 彰子 (名城大学大学院博士後期課程)

タイトル：「近世琉球の家譜資料における側室的位置づけを与えられる女性ー妾・側室」

報告者：Matthew Topping (琉球大学人文社会科学研究科比較地域文化専攻)

タイトル：“Endangered Language Revitalization in Ishigaki under a PAR Framework”

報告者：チャンディッタウォン・タナパット (琉球大学人文社会学部客員研究員)

タイトル：「国民国家の周辺地域の住民意識における首都・本土との距離感ータイ深南部三県と沖縄の事例から」

報告者：佐久本 佳奈 (一橋大学大学院)

タイトル：「ハンセン病文学における沖縄戦と米軍占領の記憶」

報告者：松田 潤 (一橋大学大学院言語社会研究科韓国学研究所 PD)

タイトル：「主権を攪乱する統治ー近現代沖縄における統治性」

レジリエンス&バイタリティ 勉強会

プロジェクトメンバーの個々の専門分野の知見を共有しながら「レジリエンス」と「バイタリティ」について学ぶことを目的とする。2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、Web会議システム Zoom にて行った。

第1回

日時：2020年6月16日（火）16:20～17:50

発表者：佐藤 崇範（アーカイブズ担当）

タイトル：「Inter-island Resilience and Vitality プロジェクトにおける『研究データ管理』の実践に向けて」

第2回

日時：2020年7月28日（火）16:20～17:50

発表者：宜野座 綾乃（プロジェクトリーダー・コミュニティユニット）

タイトル：「島嶼研究におけるレジリエンスとバイタリティ」

第3回

日時：2020年8月17日（月）14:40～16:10

発表者：渡辺 信（防災ユニット）

タイトル：「マングローブ研究の現場から」

第4回

日時：2020年9月7日（月）14:40～16:10

発表者：前田 勇樹（ポスドク研究員）、森 啓輔（ポスドク研究員）

タイトル：「感染症流行と近代沖縄社会」（前田）

「有機フッ素化合物汚染除去をめぐる政治行政過程比較—ドイツと沖縄を事例に」（森）

第5回

日時：2020年9月29日（火）16:20～17:50

発表者：波多野 想、喜納 育江、宜野座 綾乃、山里 絹子（コミュニティユニット）

タイトル：「コミュニティにおけるバイタリティとレジリエンス—各人の研究状況から—」

第6回

日時：2020年10月27日（火）16:20～17:50

発表者：池上 大祐、山本 章子（軍事と環境ユニット）

タイトル：「軍事と環境ユニットの概要説明」（池上）

「ドナルド・ヒューズ『環境史入門』を読む」（池上）

「南西防衛の問題の整理」（山本）

第7回

日時：2020年12月15日（火）16:20～17:50

発表者：小林 潤（保健ユニット）

タイトル：“The research of resilience under COVID-19 pandemic”

第8回

日時：2021年2月1日（月）16:20～17:50

発表者：鳥山 淳（歴史精算ユニット）

タイトル：「久米島の住民虐殺事件をめぐるレジリエンスとバイタリティ」

(2) 研究資源データベース

島嶼地域科学研究所では、2018年度より、島嶼地域科学を推進する過程で設定する重点課題を軸に、①学術情報・資料の収集・整理を行い研究資源化すること、②それらをデジタル化・データベース化し、ウェブ等で公開することで、多様な研究者からのアクセスを容易にすること、③「研究資源」及びそこから新たに得られた知見を地域社会に還元すること、を目的として、ウェブサイトで「研究資源データベース」の公開を始めた。2020年度も引き続き公開を継続している。

The screenshot shows the website of the Research Institute for Islands and Sustainability (RIIS) at the University of the Ryukyus. The header includes the university logo and name in Japanese and English, along with navigation links for 'お問い合わせ' (Contact) and 'サイト' (Site). Below the header is a navigation menu with three items: '研究所概要 / About RIIS', '研究プロジェクト / Research Projects', and '共同利用・共同研究 / Research Collaboration'. The main content area is titled '学術情報・資料 / Academic Resources' and features a prominent blue banner for '研究資源データベース / Research Resource Database'. Underneath, there are two featured sections: '沖縄関係外交資料コレクション / Okinawa Diplomatic Resources Collection' with a sub-link to '沖縄関係外交史料館資料データベース / Okinawa Diplomatic Archival Document Database', and 'シマジマのしまくとうば' (Shimajima no Shimakutouba) with a sub-link to 'シマジマのしまくとうば' and a description '危機的な状況にある言語・方言に関する研究' (Research on languages and dialects in crisis situations). At the bottom, there is a link to 'ハワイ大学マノア校ハミルトン図書館所蔵の南洋群島関係資料 "Tochi kankei shorui sonota" 収録タイトルリスト' (List of titles included in the collection of South Pacific Islands related materials held by the University of Hawaii, Manoa, Hamilton Library).

(3) 共通教育科目「島嶼地域科学入門」(後学期・水曜日 1限)

島嶼地域科学研究所では各年度の後学期に共通教育科目の授業を提供している。本授業は複数の学問分野の専門家によるオムニバス講義で実施している。2020年度の授業内容は以下の通りである。

授業概要

沖縄や沖縄と地域課題を共有する小規模な島嶼は、大陸や大国との相対的な関係において、これまで「周縁」の存在として位置づけられてきた。しかし、自然環境や伝統文化に対する認識や国際情勢の変化の中で、小島嶼の存在意義や役割もまた変化しつつある。本科目では、多様な専門分野の視点から島嶼社会について学ぶことによって、現状や問題を多角的に理解し、自律的・持続的な島嶼地域社会の発展を実現する方策について考える。

授業内容(各回の担当教員と授業テーマ)

- 第1回:10月7日 宜野座 綾乃 登録および講義内容等のガイダンス
- 第2回:10月14日 藤田 陽子 「島嶼地域の環境と経済」
- 第3回:10月21日 宜野座 綾乃 「島嶼地域における軍事主義の文化とジェンダー」
- 第4回:10月28日 池上 大祐 「世界史のなかの島嶼地域」
- 第5回:11月4日 瀬口 浩一 「島嶼社会の財政問題を考える」
- 第6回:11月11日 鳥山 淳 「近現代の島嶼における軍民関係」
- 第7回:11月18日 佐藤 崇範 「島嶼地域科学とアーカイブズ」
- 第8回:11月25日 前半担当教員と受講生との質疑応答とディスカッション
- 第9回:12月9日 波多野 想 「島嶼における文化遺産のポリティクス」
- 第10回:12月16日 山里 絹子 「島嶼地域における移民・ディアスポラ」
- 第11回:12月23日 當山 奈那 「島嶼地域における動植物と方言」
- 第12回:1月6日 本村 真 「島嶼地域の児童問題とその解決に向けた実践」
- 第13回:1月13日 稲村 務 「島嶼社会の「民間伝承」－知的財産と継承－」
- 第14回:1月20日 内藤 重之 「島嶼地域の農業・農村」
- 第15回:1月27日 後半担当教員と受講生との質疑応答とディスカッション

Ⅲ. 教員の研究活動と成果

1. 研究業績
2. 教育活動
3. 社会連携

1. 研究業績（専任・併任教員）

* 専任・併任教員名に下線を付す

【原著論文】

1. 池上大祐 (2020) 「「島嶼帝国」アメリカの「海の西漸運動」－アメリカ膨張史に関する一試論」『越境広場』7号。
2. 石原昌英 (2020) 「ハワイ、グアム、および琉球・沖縄における言語接触と米国の言語政策」『Southern Review: Studies in Foreign Language and Literature (沖縄外国文学会)』35、pp.5-17。
3. 越智正樹 (2021) 「観光まちづくりの再分節化－混在概念の弁別とさらなる外延」『観光学評論』9(1) pp.23-37。
4. 佐久間邦友、高嶋真之、本村 真 (2020) 「離島における自治体主導型学習支援事業の現状と課題－沖縄県北大東村「なかよし塾」を事例に－」『島嶼地域科学』創刊号、pp.21-40。（査読あり）
5. 當山奈那 (2020) 「伊是名村諸方言の動詞の文法的な形式」『シマジマのしまくとぅば』2、pp.59-82。
6. 長岡杏実、内藤重之、杉村泰彦、玉城政信 (2020) 「沖縄の食文化に対応した豚肉の製造と供給形態」『農業市場研究』29(3)、pp.60-66。
7. 鳥山 淳 (2021) 「常識をゆさぶる資料群－阿波根昌鴻とたたかひの記録」『世界』941号、pp.212-217。
8. 波多野想 (2020) 「水金九地区礦業歴史沿革與空間發展」黄士哲・波多野想・李柏賢（編）『水金九礦業文化景觀範圍與價值評估研究』、新北市立黃金博物館、pp.13-138。（査読あり）
9. 波多野想 (2020) 「文化景觀構成要素與特色分析」黄士哲・波多野想・李柏賢（編）『水金九礦業文化景觀範圍與價值評估研究』、新北市立黃金博物館、pp.139-156。（査読あり）
10. 波多野想 (2020) 「水金九礦業文化景觀保存管理範圍之標定」黄士哲・波多野想・李柏賢（編）『水金九礦業文化景觀範圍與價值評估研究』、新北市立黃金博物館、pp.157-167。（査読あり）
11. 廣瀬 孝 (2021) 「沖縄島北部の沈砂池における水文観測」『地理歴史人類学論集』No.10、pp.99-106。
12. 宮内久光 (2021) 「クウェートで就労するフィリピン人女性看護師の移民評価と再移動計画」『移民研究』17、pp.23-42。（査読あり）
13. 村元幸、杉村泰彦、内藤重之 (2020) 「中小規模採卵養鶏経営における鶏糞処理方策の現状と課題：沖縄本島を事例として」『琉球大学農学部学術報告』67号、pp.1-6。
14. 矢野恵美 (2020) 「ノルウェーにおける性の多様性の尊重から学ぶこと」『ジェンダー法研究』7、pp.69-88。
15. Crystal Amiel M Estrada, Ernesto R Gregorio Jr, Kethsana Kanyasan, Jeudyla Hun, Sachi Tomokawa, Maria Corazon Dumlao, Jun Kobayashi. 2020. School Health Promotion in Southeast Asia by Japan and Partners. Pediatrics international : official journal of the Japan Pediatric Society, volume62, Issue9: 1029-1038.（査読あり）
16. Estrada CA, Usami M, Satake N, Gregorio EJ, Leynes C, Balderrama N, Leon JF, Concepcion RA, Timbalopez CT, Tsujii N, Harada I, Masuya J, Kihara H, Kawahara K, Yoshimura Y, Hakoshima Y, Kobayashi J. 2020. Current situation and challenges for mental health focused on treatment and care in Japan and the Philippines - highlights of the training program by the National Center for Global Health and Medicine. BMC Proceedings.（査読あり）

17. **Hatano, So**. 2020. The Perspective of Cultural Heritage/Cultural Landscape in Critical Island Studies. Ayano Ginoza, ed. *The Challenge of Island Studies*. Springer Nature Singapore: 57-77. (査読あり)
18. Nam EW, You B, Noda S, **Kobayashi J**, Shon C. 2020. Analysis of integrated health and welfare services and the direction of community care in Seoul and Japan using capacity mapping tool. *The Seoul Institute Journal*, 19. (査読あり)
19. Noboru T, Amalia E, Hernandez PMR, Nurbaity L, Affarah WS, Nonaka D, Takeuchi R, Kadriyan H, **Kobayashi J**. 2020. School-based education to prevent bullying in high schools in Indonesia. *Pediatrics international : official journal of the Japan Pediatric Society*, volume63, Issue4: 459-468. (査読あり)
20. Noguchi Y, Nonaka D, Kounnavong S, **Kobayashi J**. 2021. Effects of Hand-Washing Facilities with Water and Soap on Diarrhea Incidence among Children under Five Years in Lao People's Democratic Republic: A Cross-Sectional Study. *International journal of environmental research and public health*, 18 (2): 2-4.
21. **Noriyuki Suzuki**, Tanapat Jundittawong, Phonemany Vongxai. 2021. Dynamics of Civil Society Movements and Roles of Local Communities in Thailand, Japan, and Lao PDR: Common Experiences, Similarities, and Differences. Watcharee Srikham, ed. *The Proceeding of Thailand's 2rd Annual Conference on Anthropology and Sociology, Ubon Ratchathani, Thailand, 20-21 November 2020*, Faculty of Liberal Arts, Ubon Ratchathani University: 434–453. (査読あり)
22. Saeko Kutsunugi, Kumiko Tsujino, Kyoko Murakami, Kazuko Iida, Tsugiko Gima, Yumiko Endoh, Yoko Tamashiro, Teresa E Stone, **Jun Kobayashi**. 2020. Mothers' experiences of parenting a child with chromosomal structural abnormalities: The journey to acceptance. *Japan journal of nursing science*, Volume18, Issue2. (査読あり)
23. Sachi Tomokawa, Takashi Asakura, Sammy M Njenga, Doris Wairimu Njomo, Rie Takeuch, Takeshi Akiyama, Haruki Kazama, Alex Mutua, Walema Barnett, Hanae Henzan, Masaaki Shimada, Yoshio Ichinose, Yasuhiko Kamiya, Satoshi Kaneko, Kimihiro Miyake, **Jun Kobayashi**. 2020. Examining the appropriateness and reliability of the strategy of the Kenyan Comprehensive School Health Program. *Global health promotion*, 27(4): 78 – 87. (査読あり)
24. Tohru Seraku, **Nana Tohyama**. 2020. Grammatical nominalization in Yoron Ryukyuan. *Studies in Language*, 44(4): 879-916. (査読あり)
25. Tomokawa S, Miyake K, Akiyama T, Makino Y, Nishio A, **Kobayashi J**, Jimba M, Ayi I, Njenga SM, Asakura T. 2020. Effective school-based preventive interventions for alcohol use in Africa: a systematic review. *African health sciences*, 20 (3): 1397 – 1406. (査読あり)
26. Toyama N, Vongphoumy I, Uehara M, Sato C, Nishimoto F, Moji K, Pongvongsa T, Shirai K, Takayama T, Takahara M, Tamashiro Y, Endo Y, Kounnavong S, **Kobayashi J**. 2021. Impact of village health volunteer support on postnatal depressive symptoms in the remote rural areas of Lao People's Democratic Republic: a cross-sectional study. *Tropical medicine and health*, 49 (1) 28.
27. Viqqi Kurnianda, Hiroyuki Fujimura, **Yoko Kanna**, and Junichi Tanaka. 2021. Photooxidation Products from a Marine Cadinane Sesquiterpenoid. *Chemistry Letters*, Vol.50, No.2: 220-222. (査読あり)
28. Wanichcha Narongchai, Rukchanok Chumnanmak, Panu Suppatkul, Nutchanat Somkaun, Sudarat Sriubon, Chittima Pattanatanapa, **Noriyuki Suzuki**. 2020. Thais in Okinawa Prefecture, Japan: Migratory Patterns and Immigration Policy Affecting International Migration. *Journal of the Social Sciences*, 48 (4): 2220-2236. (査読あり)

【書籍】

1. 池上大祐 (2020)「琉球大学「歴史総合」(1～2年生対象)授業実践」大嶋えり子・小泉勇人・茂木謙之介(編)『遠隔でつくる人文社会学知—2020年度前期の授業実践報告—』、雷音学術出版、pp.46-48。
2. 石原昌英 (2021)「琉球諸語の未来」波照間永吉、小嶋洋輔、照屋理 編『琉球諸語と文化の未来』岩波書店、pp.74-89。
3. 大湾知子 (2021)「佐敷按司朝易系統」源河朝徳、儀間朝昭、仲里朝豪、宜野座朝美、邊土名朝功、浦添健、源河朝福、仲里朝勝、仲里哲雄、大湾朝史、大湾知子、豊平朝安、辺土名朝二郎、識名朝徳、板良敷朝計、木村信教、識名朝友、仲里豪『元祖第二尚氏尚清王之第八男読谷山王子朝苗改訂玉川門中系図』、(有)ヤマダスピード製版、pp.10-165。
4. 越智正樹 (2020)「衰退する地縁・血縁的コミュニティと空き家問題との交錯—沖縄県粟国島の事例をもとに—」本村真(編)『辺境コミュニティの維持—島嶼、農村、高地のコミュニティを支える「つながり」』、ボーダーインク、pp.27-63。
5. 黄士哲・波多野想・李柏賢(編)(2020)『水金九礦業文化景觀範圍與價值評估研究』、新北市立黄金博物館。
6. 豊見山和行 (2020)「琉球史における冊封関係の諸相」麻生伸一・茂木仁史(編)『琉球国王尚家文書「火花方日記」の研究』、榕樹書林、pp.31-56。
7. 名護麻美 (2020)「平成30年度「大学の世界展開力強化事業—COIL型教育を活用した米国等との大学間交流形成支援—」—COIL型教育を活用した太平洋王島嶼地域の持続的発展に資するグローバルリーダーの育成」岡崎威生・石川隆士・名護麻美(編)『琉球大学大学教育センター報』第23号、琉球大学グローバル教育支援機構、pp.102-110。
8. 野入直美 (2020)『沖縄—奄美の境界変動と人の移動—実業家・重田辰弥の生活史』、みずき書林。
9. 野入直美 (2020)「沖縄のアメラジアンとアクション・リサーチ」谷富夫、稲月正、高畑幸、野入直美 他『社会再構築の挑戦—地域・多様性・未来』、ミネルヴァ書房、pp.153-170。
10. 宮内久光 (2021)「温暖な沖縄の気候と暮らし」宮町良広(編)『新・日本のすがた 九州地方』、帝国書院、pp.22-23。
11. 宮内久光 (2021)「再生可能エネルギーへの取り組み」宮町良広(編)『新・日本のすがた 九州地方』、帝国書院、pp.78-79。
12. 宮内久光 (2021)「南西諸島の暮らしと産業」宮町良広(編)『新・日本のすがた 九州地方』、帝国書院、pp.90-101。
13. 本村 真 (編) (2020)『辺境コミュニティの維持—島嶼、農村、高地のコミュニティを支える「つながり」』、ボーダーインク。
14. Ginoza, Avano. 2020. An Archipelagic Enunciation from Okinawa. Avano Ginoza, ed. *The Challenges of Island Studies*. Springer Nature Singapore Pte Ltd: 1-13.
15. Ginoza, Avano. 2020. Cultural Formations of Shima and Uchinanchu on the Move. Avano Ginoza. *Routledge Handbook of Contemporary Japan*. Routledge: 481-493.
16. Ginoza, Avano., Alexander, Ronni., DeLoughrey, Elizabeth., Randall, James., Hatano, Sou., and Karimata, Shigehisa. 2020. Panel Discussion Prospects for Critical Island Studies. Avano Ginoza, ed. *The Challenge of Island Studies*. Springer Nature Singapore: 95-116.

17. **Toriyama, Atsushi**. 2020. Twenty Years of Confrontation: Against the Ossification of US Military Bases in Okinawa. Takashi Horie, Hikaru Tanaka, Kiyoto Tanno, eds. *Amorphous Dissent: Post-Fukushima Social Movements in Japan*. Transpacific Press: 143-166.

【その他（資料、解説、雑文、翻訳、新聞・雑誌への投稿等）】

1. **淡野将太**、波照間永熙（2020）「小学校における自己調整学習と学業成績の関連」『琉球大学教育学部紀要』97、pp.275-277。
2. **池上大祐**（2021）「（解題）阿波根昌鴻の学びと闘いー伊江島のなかの世界史」『地理歴史人類学論集』10号、pp.133-151。
3. **池上大祐**（2021）「（新刊紹介）金澤周作監修、藤井崇、青谷秀紀、坂本優一郎、小野沢透編『論点・西洋史学』」『高大連携歴史教育研究会報』9号、pp.17-18。
4. 浦内 桜、**淡野将太**（2020）「小学校教師の宿題を用いた学習指導」『琉球大学教育学部紀要』97、pp.271-274。
5. **大湾知子**（2020）「多職種で取り組む排尿ケアー看護師の立場からー」『第27回日本排尿機能学会抄録集』。
6. **大湾知子**（2020）「知っておきたい耳鼻咽喉科用軟性内視鏡の洗浄・消毒」『ASP Advanced Sterilization Products』改訂版、pp.1-14。
7. **大湾知子**、富田なおり、當山悦子、新垣薫、山下明美、仲西めぐみ、赤嶺ゆかり（2020）「沖縄県支部活動ing」『コンチネンスナウ Now』第29巻3号、p.3。
8. **大湾知子**（2020）「安全・安心のための適切な感染性廃棄物処理への取り組み」『琉球大学環境報告書 Environmental Report 2020』2020年度、p.30。
9. **大湾知子**（2021）「文芸投稿コーナー：琉歌の部」『琉球大学同窓会会報』第43号、pp.22-23、
10. 沖縄振興開発金融公庫調査部地域連携情報室、**瀬口浩一**、上間美優 他（2021）「「コロナ禍における自治体経営の状況と今後の展望」調査報告書」『公庫レポート』（沖縄振興開発金融公庫）第170号、pp.1-74。
11. 兼城縁子、芦塚陵子、伊徳清貴、**大湾知子**、照屋典子（編）「処置を行う耳鼻咽喉科医師の接触伝播防止策の視点に基づいた経時的行動観察による現状把握」『日本感染看護学会誌』第15巻第1号、pp.5-9。
12. **喜納育江**（2020）「（書評）松永京子『北米先住民作家と<核文学>ーアポカリプスからサバイバンスへ』」『アメリカ文学研究』第57号、pp.63-68。
13. **喜納育江**（2020）「（書評）J. ウォード（石川由美子訳）『歌え、葬られぬ者たちよ、歌え』」『沖縄タイムス』2020年9月26日読書欄。
14. **喜納育江**（2021）「「故郷」に向き合う実践としてのエコクリティシズム」『コメント通信』（総特集「エコクリティシズムの現在地」）2021年2月臨時増刊号、pp.7-8。
15. 越中康治、目久田純一、**淡野将太**、徳岡大、中村多見（2020）「道徳の教科化と評価の導入に対する教員の認識」『宮城教育大学教育キャリア研究機構紀要』2、pp.83-91。
16. **佐藤崇範**（2020）「ハワイ大学マノア校ハミルトン図書館所蔵の「南洋群島関係資料」について」『島嶼地域科学』1、pp.115-126。
17. **佐藤崇範**（2020）「ハワイ大学マノア校ハミルトン図書館所蔵の南洋群島関係資料 “Tochi kankei

shorui sonota”収録タイトルリスト」『琉球大学学術リポジトリ』(URI: <http://hdl.handle.net/20.500.12000/45891>): pp.1-50。

18. 佐藤崇範・菅浩伸 (2020)「高橋達郎先生のサンゴ礁研究：インタビューを通してみえた研究観・教育観」『日本サンゴ礁学会誌』22(1)、pp.19-26。
19. 菅浩伸・藤田和彦・佐藤崇範 (2020)「テーマセッション報告 フィールドベースのサンゴ礁研究：高橋達郎先生追悼セッション」『日本サンゴ礁学会誌』22(1)、pp.7-18。
20. 瀬口浩一、富本佑登、他 (2021)「「宜野湾市人口ビジョンに関する調査・検討と改訂（宜野湾市人口ビジョン）」報告書」『宜野湾市まち・ひと・しごと創生総合戦略（宜野湾市役所）』
21. 瀬口浩一 (2021)「「沖縄県工業製品の県内自給率調査—沖縄県工業の産業連関分析—」中間報告書」『沖縄県工業連合会』
22. 杉村泰彦 (2020)「新型コロナ禍の切花産地：向き合う困難と新しい展望」『月刊 J A』67(6)、pp.28-29。
23. 豊見山和行 (2020)「第1章第2節 国立琉球大学（1972～2004）」『国立大学法人琉球大学創立70周年記念誌』pp.22-29。
24. 豊見山和行 (2020)「史資料から見た九州-琉球関係史の一断面」『がじゅまる通信』No.88、pp.3-5。
25. 豊見山和行 (2021)「「琉球国要書抜粹」について：史料翻刻と紹介（上）」『琉球アジア文化研究』第7号、pp.21-144。
26. 名護麻美 (2021)「COIL 型教育を活用した太平洋島嶼地域の持続的発展に資するグローバルリーダーの育成—国際共修を取り入れた日本人学生派遣プログラム」『日本学生支援機構(JASSO)ウェブマガジン『留学交流』』2021年2月号 Vol.119、pp.8-16。
27. 野入直美 (2020)「(書評) 下地ローレンス吉孝著『「混血」と「日本人」—ハーフ・ダブル・ミックスの社会史—』」『西日本社会学会年報』18：pp.121-122。
28. 波多野想 (2020)「地域の文化的景観の魅力を引き出す」『グリーン・エージ』559号、pp.8-11。
29. 宮里厚子 (2021)「フユレ神父の琉球滞在の記録」『欧米文化論集』第65号、pp.121-128。
30. 村元幸、杉村泰彦、内藤重之 (2020)「中小規模採卵養鶏経営における鶏糞処理方策の現状と課題：沖縄本島を事例として」『琉球大学農学部学術報告』67号、pp.1-6。
31. 矢野恵美・齋藤実 (2020)「(講演) ノルウェーはなぜ性の多様性を尊重できるのか」『ジェンダー法研究』7：pp.89-98。
32. 山里絹子 (2020)「米国留学と琉球大学—教育と研究への貢献（戦後沖縄の米国留学経験者へのインタビュー）」『琉球大学創立70周年記念誌（琉球大学開学70周年記念誌編集専門部会編）』：pp.106-129。
33. 山城 新 (2020)「(書評) 石原剛編著『空とアメリカ文学』 彩流社 2019年」『英文学研究』97巻、pp.127-131。
34. Ginoza, Ayano. 2020. Prospects for Critical Island Studies. Ayano Ginoza, ed. *The Challenge of Island Studies*. Springer Nature Singapore: pp.95-116.
35. Ginoza, Ayano. 2020. Preface. Ayano Ginoza, ed. *The Challenge of Island Studies*. Springer Nature Singapore: pp. V-VI.
36. Ginoza, Ayano. 2021. Editor's Note. *Okinawan Journal of Island Studies*, volume 2: i-iii.
37. Ginoza, Ayano. 2021. Okinawa, Guahan and Hawai'i: Feminist Insights into the Linkages between Colonization, Militarism and COVID-19. *Okinawan Journal of Island Studies*, volume 2: pp.129-144.

【招待講演】

1. **大島順子**「持続可能な社会の担い手づくりと地理教育への期待」令和2年度九州高等学校地理教育研究会第21回研究大会（沖縄大会）、沖縄、2020年7月29日。（新型コロナウイルスのため、対面による開催は中止となった。要旨集 pp.53-56 に講演要旨が掲載）
2. **大湾知子**「最近の感染症」講演会、沖縄市女性連合会、ユインチホテル南城、2020年7月1日。
3. **大湾知子**「多職種で取り組む排尿ケア—看護師の立場から—」シンポジウム5「多職種で取り組む排泄ケア」/第27回日本排尿機能学会、TKP ガーデンシティ品川、2020年10月16日。
4. **大湾知子**「最近の感染症」第69回婦人大会、一般社団法人沖縄県婦人連合会、沖縄連会館、2020年10月29日。
5. **大湾知子**「感染予防行動にもとづく尿路感染症予防」放送大学沖縄学習センター客員教員による公開講演会、放送大学沖縄学習センター、沖縄県立図書館、2020年11月8日。
6. **大湾知子**「最近の感染症」講演会、那覇市婦人連合会、なは市民活動支援センター、2021年3月6日。
7. **大湾知子**「新型コロナウイルスへの対処方法」職員研修会、南城市社会福祉協議会、南城市知念社会福祉センター、2021年3月26日。
8. **豊見山和行**「ウプリ（大下り）と「多良間往復文書」」自然文化継承事業を活用した成果報告シンポジウム、多良間村、オンライン開催、2020年7月21日。
9. **野入直美**「The Past and Future of the AASO」ENGAGEASIA Special Webinar Series、オンライン開催、2020年10月7日。
10. **野入直美**「“湾生映画”にみる植民地二世の記憶と表象」国際日本文化研究センター国際研究集会「帝国のはざまを生きる—交錯する国境、人の移動、アイデンティティ」、オンライン開催、2020年11月13日。
11. **矢野恵美**「性の多様性の尊重と企業—SDGs、CSRの一環としての性の多様性の尊重—」LGBT ALLY 企業合同講演会（JTA、沖縄タイムス、琉球新報、沖縄セルラー、OTNet）、2020年8月25日。
12. **矢野恵美**「DV防止法改正と課題 ～若年層を取り巻くデートDV被害～」令和二年度DV対策事業DV防止啓発講座、2021年1月。
13. **矢野恵美**「性の多様性が尊重される社会はみんなに優しい社会」浦添市「性の多様性の尊重」についての講演会、2021年1月。
14. **Fujita, Yoko.** Framework and Concept of Regional Science for Small Islands with the Emphasis on the Collaboration between Academia and Local Community. *Moving towards the collaboration between Sophia Branding Project, Mirai 2.0 and Island Sustainability Initiative*, オンライン開催, 主催: Sophia University (上智大学), Feb 8, 2021.
15. **Ginoza, Ayano.** The US-Japan Security Alliance from an Okinawan Perspective. *Daiwa Japan-Anglo Foundation, Webinar* (Great Britain), Oct 23, 2020.
16. **Ginoza, Ayano.** Indigeneities in Okinawa. *University of Colorado, Boulder, Webinar*, Oct 23, 2020.
17. **Suzuki, Noriyuki.** Endogenous Rural Community Development: Laos, Thailand, and Japan. In *The 3rd International Seminar on Education for Rural Communities*, Vangvieng District, Vientiane Province, Lao P.D.R, Nov 23, 2020.

【学会発表】

1. 大島順子「やんばるの林業の担い手に対する意識調査からみた森林資源管理の意義と可能性」日本環境教育学会第31回年次大会（オンライン大会）・日本環境教育学会、オンライン開催、2020年8月23日。
2. 崎濱佳代、鈴木規之「ホスト社会沖縄と日系人—ラテン文化資本の架橋性」第93回日本社会学会大会、オンライン開催、2020年10月31日。
3. 佐藤崇範「台北帝国大学におけるサンゴ礁研究」日本サンゴ礁学会第23回大会、オンライン開催、2020年11月21日。
4. 杉村泰彦「フランスの青果物卸売流通における食品ロス・食品廃棄物対策」日本流通学会九州部会、オンライン開催、2020年7月18日。
5. タナバット・チャンディッタウォン、鈴木規之「「共通空間」による国民国家周辺のコフликт解決の試み—タイ深南部三県と沖縄の事例から—」日本タイ学会2020年度研究大会、オンライン開催、2020年10月10日。
6. 東矢光代・名護麻美「オンラインによる太平洋島嶼地域SDGs短期受入プログラムの試み—日本人チューター学生の学びを中心に」日本英語教育学会・日本教育言語学会第51回年次研究集会、オンライン開催、2021年2月28日。
7. 當山奈那「首里方言の副詞—琉球語音声データベースの用例から—」沖縄言語研究センター定例研究会、オンライン開催、2021年2月6日。
8. 長岡杏実、内藤重之、杉村泰彦、玉城政信「沖縄の食文化に対応した豚肉の製造と供給形態」日本農業市場学会2020年度大会、札幌・オンライン開催、2020年7月1日。
9. 野入直美「<沖縄—奄美>の視点で見る米軍統治期の沖縄」沖縄社会学会、オンライン開催、2020年11月22日。
10. 仲西めぐみ、桃原千賀子、比嘉奈美、久場川潤、照屋勝士、祖慶武之、嵩西玲奈、湧川朝矢、城間麻美、新田秋平、嘉手川豪心、大湾知子、西村かおる「沖縄協同病院における排尿ケアチームの活動報告と今後の課題」第133回日本泌尿器科学会、沖縄地方会、琉球大学医学部、2021年1月30日。
11. 廣瀬 孝・仲宗根健太「沈砂池の堆砂量から推定される堆砂速度」2020年度沖縄地理学会大会、オンライン開催、2020年12月19日。
12. 宮内久光「沖縄県座間味島におけるマリンレジャー事業所の経営形態と事業状況」日本地理学会、オンライン開催、2020年10月18日。
13. 宮内久光「日本の離島における交通インフラの改善とアクセシビリティの向上」沖縄地理学会、オンライン開催、2020年12月19日。
14. 村元幸、杉村泰彦、内藤重之「中小規模採卵養鶏業における鶏糞処理方策の現状と課題：沖縄本島を事例として」日本農業市場学会2020年度大会、札幌・オンライン開催、2020年7月4日。
15. 矢野恵美、齋藤実、西澤朋枝、谷本拓郎「ジェンダーの視点から見た刑務所—受刑者調査・刑務官調査の結果から」ジェンダー法学会第18回学術大会WS、2020年12月。
16. 矢野恵美「スウェーデンにおける2018年性犯罪規定改正の背景」ジェンダー法学会第18回学術大会シンポジウム「性犯罪改正の課題—国際水準とジェンダーを中心として」、2020年12月。
17. 矢野恵美「性の多様性の尊重ってなんだろう」西原町女性団体連絡協議会講演会、2021年2月。

18. Ginoza, Ayano. Interisland Resilience and Vitality. *Global Island Studies Webinar*, Webinar, Jun 24,2020.
19. Giniza, Ayano and Yoko Fujita. Interisland resilience and vitality. *ISISA 2020 Webinar* 主催：International Small Islands Studies Association, Jun 24,2021.
20. Suzuki, Noriyuki. Dynamics of Civil Society Movements and Roles of Local Communities in Thailand, Japan, and Lao PDR: Common Experiences, Similarities, and Differences. *Thailand's 2rd Annual Conference on Anthropology and Sociology*, Ubon Ratchathani University (オンライン参加), Nov 20,2020.

【表彰・受賞等】

1. 出花幸之介・内藤重之・杉村泰彦「食農資源経済学会学会誌賞・サトウキビ大規模経営における夏植え株出しトラッシュマルチ体系の展開」食農資源経済学会、2020年10月31日。
2. 宜野座綾乃「ジェンダー学とインターセクショナリティ」プロフェッサー・オブ・ザ・イヤー、2020年9月28日。

2. 教育活動（専任教員）

【琉球大学における教育活動：学部教育】

藤田 陽子

授業科目等	開講学部等	備考
環境経済学	国際地域創造学部経済学プログラム・法文学部総合社会システム学科・農学部合併授業	昼間主クラス
環境経済学	国際地域創造学部経済学プログラム・法文学部総合社会システム学科 合併授業	夜間主クラス
島嶼社会経済入門	国際地域創造学部（学部共通科目）	オムニバス形式。オーガナイザー。4回分担当
島嶼経済論	国際地域創造学部経済学プログラム	
島嶼地域科学入門	共通教育科目	オムニバス1回
総合環境学概論	共通教育科目（環境学副専攻）	オムニバス1回

波多野 想

授業科目等	開講学部等	備考
観光地理学	国際地域創造学部観光地域デザインプログラム	
文化観光資源概論	国際地域創造学部観光地域デザインプログラム	
観光景観論	国際地域創造学部観光地域デザインプログラム	
地域・国際実践力演習Ⅰ	国際地域創造学部観光地域デザインプログラム	
地域・国際実践力演習Ⅱ	国際地域創造学部観光地域デザインプログラム	
観光学演習Ⅰ	観光産業科学部観光科学科	
観光学演習Ⅱ	観光産業科学部観光科学科	
観光景観論	観光産業科学部観光科学科	
文化観光資源概論	観光産業科学部観光科学科	

鳥山 淳

授業科目等	開講学部等	備考
島嶼地域科学入門	共通教育科目	オムニバス／ディスカッション各1回
平和論	共通教育科目	オムニバス2回
沖縄平和学	沖縄国際大学総合文化学部社会文化学科	

宜野座 綾乃

授業科目等	開講学部等	備考
島嶼地域科学入門	共通教育科目	オムニバス
琉球学入門	共通教育科目	オムニバス
ジェンダー学とインターセクショナルリティ	共通教育科目	
英語講読 VI	沖縄キリスト教学院大学	

佐藤 崇範

授業科目等	開講学部等	備考
島嶼地域科学入門	共通教育等科目	オムニバス1回

【琉球大学における教育活動：大学院教育】

藤田 陽子

授業科目等	開講学部等	備考
環境経済学特論	人文社会科学研究科博士前期課程	
環境経済学演習	人文社会科学研究科博士前期課程	
総合社会システム特別演習 I・II	人文社会科学研究科総合社会システム専攻	チームティーチング
島嶼経済特論	人文社会科学研究科博士前期課程	
島嶼経済実践演習	人文社会科学研究科博士前期課程	
島嶼環境経済特論	人文社会科学研究科博士後期課程	
島嶼環境経済演習	人文社会科学研究科博士後期課程	
比較地域文化総合演習 I～IV	人文社会科学研究科博士後期課程	チームティーチング

波多野 想

授業科目等	開講学部等	備考
観光資源マネジメント特論	観光科学研究科	
文化観光資源マネジメント演習	観光科学研究科	

鳥山 淳

授業科目等	開講学部等	備考
国際言語文化特別演習Ⅰ	人文社会科学研究科・博士前期課程	
国際言語文化特別演習Ⅱ	人文社会科学研究科・博士前期課程	
近現代沖縄政治社会史基礎特論	人文社会科学研究科・博士前期課程	
近現代沖縄政治社会史応用特論	人文社会科学研究科・博士前期課程	
比較地域文化総合演習Ⅰ	人文社会科学研究科・博士後期課程	
比較地域文化総合演習Ⅱ	人文社会科学研究科・博士後期課程	
比較地域文化総合演習Ⅲ	人文社会科学研究科・博士後期課程	
比較地域文化総合演習Ⅳ	人文社会科学研究科・博士後期課程	
近現代沖縄史学特論	人文社会科学研究科・博士後期課程	
近現代沖縄史学演習	人文社会科学研究科・博士後期課程	

【琉球大学における教育活動：研究生等の受入】

波多野 想

人数	身分	国内/国外	受入期間
1名	研究生	国外	2020年10月1日－継続中

【学外における教育活動】

山極 海嗣

授業科目等	開講学部等	備考
文科系学問における科学的な探索～文理/異分野を融合的に行う考古学・人類学的研究	宮城県古川黎明高校におけるスーパーサイエンスハイスクール	依頼講演 2020年2月9日 オンライン開催

3. 社会連携（専任教員）

【社会活動・地域貢献（学外団体委員等）】

氏名	活動内容	活動期間
藤田陽子	日本島嶼学会理事	2019年11月～
藤田陽子	日本地域学会理事	2021年1月～
藤田陽子	沖縄県振興審議会総合部会専門委員	2019年7月～2022年3月
藤田陽子	日本島嶼学会宮古島大会実行委員長	2019年10月25日～27日（大会期間）
藤田陽子	宮古島市都市計画マスタープラン策定委員会委員	2019年10月～2021年3月
藤田陽子	環境省地球環境局 気候変動適応における広域アクションプラン策定事業 九州・沖縄ブロック生態系分科会アドバイザー	2020年9月～2022年3月
波多野想	沖縄総合事務局開発建設部「景観委員会」	2020年度
波多野想	沖縄県「沖縄県景観評価委員会」	2020年度
波多野想	沖縄県「沖縄県景観形成審議会」	2020年度
波多野想	沖縄県「沖縄県世界文化遺産保存活用学術委員会」	2020年度
波多野想	沖縄県「沖縄県文化財保護審議会」	2020年度
波多野想	那覇市「那覇市都市景観審議会」	2020年度
波多野想	浦添市「浦添市屋外広告物検討協議会」	2020年度
波多野想	うるま市「うるま市観光まちづくり推進協議会」	2020年度
波多野想	与那国町「与那国町国境交流結節点化推進事業検討委員会」	2020年度
波多野想	沖縄都市モノレール「沖縄都市モノレール車体利用広告審査会」	2020年度
鳥山淳	沖縄県史編集委員会委員	2020年4月～2021年3月
鳥山淳	沖縄県史現代編専門部会	2020年4月～2021年3月
鳥山淳	宜野湾市史戦後編専門部会	2020年4月～2021年3月
鳥山淳	名護市史戦後生活史編専門部	2020年4月～2021年3月
鳥山淳	沖縄市史編集委員会	2020年4月～2021年3月
宜野座綾乃	女性・戦争・人権学会運営委員	2018年度～
佐藤崇範	沖縄県サンゴ礁保全推進協議会 監査役	2018年7月～2020年6月
佐藤崇範	日本サンゴ礁学会 代議員	2017年10月～継続中
佐藤崇範	日本サンゴ礁学会 教育・普及啓発委員会委員長	2020年12月～継続中
佐藤崇範	国立公文書館 認証アーキビスト登録	2021年1月～継続中
山極海嗣	東南アジア考古学会編集委員	2018年度～継続中

【国際活動・国際協力等】

氏名	活動内容	活動期間
宜野座綾乃	JICA 母子保健研修講師	2020年度～継続中
宜野座綾乃	Okinawan Journal of Island Studies 編集長	2019年度～継続中

【所属学会】

氏名	学会名
藤田陽子	日本島嶼学会
藤田陽子	日本地域学会
藤田陽子	環境経済・政策学会
藤田陽子	日本リスク学会
藤田陽子	生活経済学会
藤田陽子	環境情報科学センター
藤田陽子	International Small Islands Studies Association (国際小島嶼学会)
波多野想	日本遺跡学会
波多野想	産業遺産学会
波多野想	観光学術学会
波多野想	日本観光研究学会
波多野想	国際産業遺産保存委員会
鳥山淳	同時代史学会
鳥山淳	日本平和学会
鳥山淳	琉球沖縄歴史学会
鳥山淳	沖縄県地域史協議会
宜野座綾乃	American Studies Association
宜野座綾乃	American Historical Association
宜野座綾乃	Native American and Indigenous Studies Association
宜野座綾乃	Association for Asian American Studies
宜野座綾乃	女性・戦争・人権学会
佐藤崇範	日本アーカイブズ学会
佐藤崇範	日本サンゴ礁学会
佐藤崇範	International Coral Reef Society
佐藤崇範	日本島嶼学会
佐藤崇範	生き物文化誌学会
佐藤崇範	全日本博物館学会
佐藤崇範	日本博物科学会
佐藤崇範	日本科学史学会生物学史分科会
佐藤崇範	沖縄生物学会
山極海嗣	東南アジア考古学会
山極海嗣	沖縄考古学会
山極海嗣	日本オセアニア学会
山極海嗣	物質文化研究会

IV. 外部資金等研究費獲得状況

1. 科学研究費助成事業
2. その他の競争的資金
3. 受託研究

1. 科学研究費助成事業

* 併任教員を含む

【研究代表】

研究種目	氏名	期間	2020 年度獲得額 (単位：千円)
研究課題名			
基盤研究 (B)	豊見山和行	2016～2021 年度	1,950
琉球史科学の基礎的構築に基づく近世琉球史研究			
基盤研究 (B)	鳥山淳	2020～2023 年度	2,100
復帰前後の沖縄における基地と開発をめぐる住民運動に関する実証的研究と資料整備			
基盤研究 (B)	野入直美	2019～2021 年度	3,250
戦後沖縄社会の再建と「引揚げエリート」—台湾・満洲の「専門職引揚者」を中心に			
基盤研究 (C)	越智正樹	2019～2021 年度	1,690
辺境観光地域における社会的 DMO 成立要件に関する観光経営社会学的分析			
基盤研究 (C)	佐藤崇範	2020～2023 年度	800
自然史系博物館における「研究資料」の利活用促進に向けたアーカイブズ学的研究			
基盤研究 (C)	喜納育江	2019～2021 年度	1,040
現代アメリカにおける不寛容の言説と境域文化による多様性の再構築に関する研究			
基盤研究 (C)	宜野座綾乃	2019～2021 年度	1,269
女性琉球舞踊指導者のアメリカ社会におけるエイジェンシーの分析			
基盤研究 (C)	杉村泰彦	2018～2020 年度	1,430
食品ロスの削減・再資源化過程における品揃え形成と需給調整に係わる流通論的研究			
基盤研究 (C)	山城新	2018～2020 年度	520
現代アメリカ文学・文化の中の海の役割と概念性			
基盤研究 (C)	波多野想	2020～2022 年度	1,170
日本植民地下台湾における金瓜石鉱山の開発と事業圏域の拡大			
基盤研究 (C)	鈴木規之	2018～2020 年度	1,430
ホスト社会沖縄と日系人—ラテン文化資本の架橋性—			

国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化(B))	鈴木規之	2020～2024 年度	1,560
タイの開発と市民社会形成のプロセープラチャークム（住民組織）のダイナミズム			
若手研究（B）	當山奈那	2017～2020 年度	
国頭諸語の記述文法とドキュメンテーション			
若手研究	當山奈那	2020～2023 年度	1,560
琉球諸語における受動・使役・授受の記述的研究			
研究活動スタート支援	山里絹子	2019～2021 年度	
米軍基地で育った「沖縄系アメリカ人」のアイデンティティ形成とディアスポラの経験			
特別研究員奨励費	山極海嗣	2021～2023 年度	1,040
ミクロネシア-南琉球の比較分析による初期人類の島嶼適応戦略の解明			

【研究分担】

研究種目	氏名	期間	2020 年度獲得額 (単位：千円)
研究課題名			
基盤研究（A）	廣瀬孝	2018～2022 年度	100
沿岸生態系と農地を相互保全する地域再循環システムに基づく流域型農業環境革新の展開			
基盤研究（C）	宮内久光	2018～2022 年度	780
離島地域における生活インフラの状況と多機能化による集落機能維持に関する研究			
基盤研究（C）	杉村泰彦	2017～2021 年度	
甘味資源作物の存在意義と地域農業の展望			
基盤研究（C）	淡野将太	2020～2023 年度	
攻撃行動に対する小学生の善悪判断の発達的变化：仮説的推論と道徳感情帰属に着目して			
基盤研究（C）	内藤重之	2017～2021 年度	
甘味資源作物の存在意義と地域農業の展望			
基盤研究（C）	廣瀬孝	2019～2023 年度	100
南西諸島におけるカルスト地形の形成プロセス：野外計測と野外実験からのアプローチ			

新学術領域研究（研究領域提案型）	狩俣繁久	2018～2022 年度	962
日本語と関連言語の比較解析によるヤポネシア人の歴史の解明			
挑戦的研究（開拓）	山極海嗣	2020～2022 年度	400
東南アジアへ拡散したオーストロネシア語族の土器・埋葬文化に関する学際的研究			
国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（B））	山極海嗣	2018～2021 年度	700
オセアニアの人類移住と島嶼間ネットワークに関わる考古学的研究			
挑戦的研究（萌芽）	山里絹子	2018～2021 年度	390
島嶼地域における女性の主体的移動と近現代社会に与えた普遍的インパクトに関する研究			

2. その他の競争的資金

担当者氏名	支出機関名	期間	2020 年度獲得額 (単位：千円)
事業名・研究題目			
大湾知子	島嶼防災研究センター	2020 年 8 月～2021 年 3 月	250
大学生における新型コロナウイルス感染症による日常生活への影響と対策			
越智正樹	琉球大学首里城再興研究プロジェクト	2020 年度	
複層的な首里歴史まちづくりー歴史資源の多元性と新たな地図化ー			
漢那洋子	令和 2 年度琉球大学女性研究者支援研究費	2020 年 7 月 14 日～2021 年 3 月 31 日	1,000
光化学を題材とした科学教育プログラムの開発・構築とその実践展開に向けた研究			
大島順子	林野庁沖縄森林管理署	2020 年 5 月～2021 年 3 月 19 日	3,543
令和 2 年度希少野生生物保護管理事業（沖縄島北部国有林）			
野入直美	琉球大学	2020 年度	
研究成果公開促進経費（学術図書刊行）			
矢野恵美	公益財団法人 三菱財団 人文科学研究助成	2020 年 10 月～2022 年 3 月	
ジェンダーの視点から見た「犯罪者を親にもつ子ども」への支援と法			
佐藤崇範	サントリー文化財団	2020 年 8 月～2021 年 7 月	2,300
研究者資料の学術資源化に向けた資料整理法の提案ー実験物理学者・中谷宇吉郎資料を事例としたアーカイブズ学的実践			

3. 受託研究

担当者氏名	支出機関名	期間	2020年度獲得額 (単位：千円)
研究課題名			
瀬口浩一	沖縄県工業連合会	2020年10月～2021年12月	660
沖縄県工業製品の県内自給率調査－沖縄県工業の産業連関分析－			
瀬口浩一	沖縄振興開発金融公庫	2020年10月～2021年3月	450
コロナ禍を生き抜く自治体経営の状況と今後の展望			
瀬口浩一	宜野湾市役所	2020年8月～2021年3月	1,440
宜野湾市人口ビジョンに関する調査・検討と改訂			
宜野座綾乃	文部科学省 機能強化経費	2019年度～2021年度	13,220
島嶼地域科学の分野横断型研究展開による国際的共同拠点形成			
波多野想（代表）	日本学術振興会『課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業』（領域開拓プログラム）	2020年10月～2023年3月	2,847
対話型アーカイブズによる新たな「島嶼の知」の創出に基づく島嶼地域科学の体系化			

V . 研究所運営

1. 研究所会議
2. 所内委員会組織
3. 協議委員会
4. 共同利用・共同研究運営委員会
5. 専任教員ミーティング
6. 広報

1. 研究所会議

月	日	会議名	摘要
5	13	第1回 研究所会議	<p>議題 1. 講師採用人事について</p> <p>議題 2. 客員研究員の期間延長について</p> <p>報告 1. 大学における活動制限期間の勤務体制等について</p> <p>報告 2. 2020年度公募型共同利用・共同研究公募について</p>
6	10	第2回 研究所会議	<p>議題 1. 2019年度決算（案）について</p> <p>議題 2. 2020年度予算（案）について</p> <p>議題 3. 研究生の受入について</p> <p>議題 4. 客員研究員の受入について</p> <p>報告 1. 講師採用人事について</p> <p>報告 2. 和文誌『島嶼地域科学』創刊号について</p>
7	8	第3回 研究所会議	<p>議題 1. 新型コロナ感染対策について</p> <p>議題 2. 研究資源データベースについて</p> <p>議題 3. 2019年度所報について</p> <p>報告 1. 講師着任日について</p> <p>報告 2. 研究生の受入について（資料）</p> <p>報告 3. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ OJSについて ・ 『島嶼地域科学』について ・ Resilience and Vitality Project について ・ 科研費 学術変革領域研究申請について
8	13	第4回 研究所会議	<p>議題 1. 新型コロナ感染防止策について</p> <p>報告 1. 和文誌『島嶼地域科学』について</p> <p>報告 2. 学術振興会「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業（領域開拓プログラム（研究テーマ公募型）」の募集について</p> <p>報告 3. 事務補佐員の勤務時間について</p> <p>報告 4. 次回研究所会議について</p>
10	14	第5回 研究所会議	<p>議題 1. 2019年度所報（案）について</p> <p>議題 2. 和文誌『島嶼地域科学』の編集体制について</p> <p>議題 3. 次年度開催予定のイベントについて</p> <p>報告 1. 学術振興会「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業（領域開拓プログラム（研究テーマ公募型）」の採択について</p>

月	日	会議名	摘要
11	11	第6回 研究所会議	<p>議題 1. 学長裁量経費「教育研究機能促進経費」の予算配分について</p> <p>議題 2. 文系総合研究棟 602-2 資料室整備について</p> <p>議題 3. 令和3年度戦略的重点配分経費「教育研究環境充実経費」について</p> <p>議題 4. 年俸制II適用教員への外部資金獲得インセンティブ(案)について</p> <p>議題 5. 新型コロナウイルス感染症対応について</p> <p>報告 1. 次号定期刊行物の出版準備状況について</p>
12	9	第7回 研究所会議	<p>議題 1. 『島嶼地域科学』出版スケジュールについて</p> <p>議題 2. OJISの新たな公開方法について</p> <p>報告 1. 新型コロナウイルス感染対策について</p> <p>報告 2. <i>The Challenges of Island Studies</i> について</p> <p>報告 3. 『島嶼地域科学という挑戦』について</p>
1	13	第8回 研究所会議	<p>議題 1. 2021年度併任教員継続意志確認の依頼について</p> <p>議題 2. 特別協力研究員制度について</p> <p>報告 1. RIIS 研究紹介セミナーの開催について</p>
2	10	第9回 研究所会議	<p>議題 1. 2021年度併任教員(継続)について</p> <p>議題 2. 客員研究員について</p> <p>議題 3. 研究所運営体制について</p> <p>報告 1. 学術変革領域(A)申請について</p> <p>報告 2. 次号定期刊行物の出版準備状況について</p>
3	10	第10回 研究所会議	<p>議題 1. 2021年度公募型共同利用・共同研究について</p> <p>議題 2. 客員研究員について</p> <p>議題 3. 6階資料室について</p> <p>報告 1. 各種業務の進捗状況について</p>

2. 所内委員会組織

(1) *Okinawan Journal of Island Studies (OJIS)* 編集委員会

月	日	会議名	摘要
4	24	第1回 <i>OJIS</i> 編集委員会会議	議題1. <i>OJIS</i> 創刊号の配布と査収 議題2. <i>OJIS</i> の改善点に関して 議題3. アドバイザリーボードによる査収に関して 議題4. Vol. 2 募集および今後の展望に関して 議題5. その他
7	20	第2回 <i>OJIS</i> 編集委員会会議	議題1. ㄨ切延長前に投稿のあった論文の検討 議題2. <i>OJIS</i> Vol. 1 のフィードバックのレビュー 議題3. その他
9	9	第3回 <i>OJIS</i> 編集委員会会議	議題1. 8月10日ㄨ切分の投稿論文のスクリーニング 議題2. Vol. 3 スペシャル号に関して 議題3. 6月30日までに投稿があった論文の査読結果について 議題4. その他
10	19	第4回 <i>OJIS</i> 編集委員会会議	議題1. 査読結果の報告と <i>OJIS</i> Vol. 2 への掲載の審議 議題2. 進捗状況の報告 議題3. <i>OJIS</i> Vol. 2 の表紙 議題4. オープンアクセスについての文言追加
12	3	<i>OJIS</i> 編集委員会臨時会議	議題1. 査読結果が割れた投稿論文の掲載に関する最終審議 議題2. 寄稿論文と査読付き投稿論文をどのように差別化するか 議題3. その他、宜野座編集長からの報告など

(2) 『島嶼地域科学』編集委員会

月	日	会議名	摘要
5	25~27	【メール編集委員会】	議題1. 再査読依頼について
5	30	第2回『島嶼地域科学創刊号』 編集委員会会議(ZOOM オンライン)	議題1. 再査読依頼について
7	9	第3回『島嶼地域科学創刊号』 編集委員会会議	議題1. 原稿の採否、種別について 議題2. 新雑誌の形態について
7	15~17	【メール編集委員会】	議題1. 雑誌名の英語表記について 議題2. 雑誌の体裁について
8	30~9/3	【メール編集委員会】	議題1. 表紙について 議題2. 版下について
9	12	『島嶼地域科学 創刊号』J-STAGE 公開	

12	1~9	【メール編集委員会】	議題1. 投稿の意思表示の締め切り について
2	4	第1回『島嶼地域科学第2号』 編集委員会会議 (ZOOM オンライン)	議題1. 原稿投稿状況について 議題2. 査読者について 議題3. 査読報告書について 議題4. 研究ノートの取り扱いにつ いて 議題5. 既定ページ数超過の取り扱 いについて 議題6. 総合評価について
2	4~6	【メール編集委員会】	議題1. 査読結果報告書の修正につ いて
3	24	第2回『島嶼地域科学第2号』 編集委員会会議	議題1. 査読結果について
	24~25	【メール編集委員会】	議題1. 再査読結果報告書について

3. 協議委員会

2020年度は開催なし。

4. 共同利用・共同研究運営委員会

2020年度は開催なし。

5. 専任教員ミーティング

月	日	会議名
4	7	第1回 専任教員・研究員ミーティング
5	28	第2回 専任教員・研究員ミーティング
6	2	第3回 専任教員・研究員ミーティング
6	16	第4回 専任教員・研究員ミーティング
6	26	第5回 専任教員・研究員ミーティング
7	1	第6回 専任教員・研究員ミーティング
7	15	第7回 専任教員・研究員ミーティング
7	22	第8回 専任教員・研究員ミーティング
7	29	第9回 専任教員・研究員ミーティング
8	5	第10回 専任教員・研究員ミーティング
9	16	第11回 専任教員・研究員ミーティング
9	23	第12回 専任教員・研究員ミーティング
9	30	第13回 専任教員・研究員ミーティング
10	7	第14回 専任教員・研究員ミーティング
10	21	第15回 専任教員・研究員ミーティング
10	28	第16回 専任教員・研究員ミーティング
11	4	第17回 専任教員・研究員ミーティング
11	18	第18回 専任教員・研究員ミーティング
11	25	第19回 専任教員・研究員ミーティング
12	2	第20回 専任教員・研究員ミーティング

月	日	会議名
12	16	第 21 回 専任教員・研究員ミーティング
12	23	第 22 回 専任教員・研究員ミーティング
1	6	第 23 回 専任教員・研究員ミーティング
1	22	臨 時 専任教員・研究員ミーティング
1	27	第 24 回 専任教員・研究員ミーティング
2	3	第 25 回 専任教員・研究員ミーティング
2	17	第 26 回 専任教員・研究員ミーティング
2	24	第 27 回 専任教員・研究員ミーティング
3	3	第 28 回 専任教員・研究員ミーティング
3	17	第 29 回 専任教員・研究員ミーティング
3	24	第 30 回 専任教員・研究員ミーティング
3	31	第 31 回 専任教員・研究員ミーティング

(一部オンラインにて開催)

6. 広報

島嶼地域科学研究所ウェブサイト <https://riis.skr.u-ryukyu.ac.jp/>

各種イベント、取り組みに関するお知らせ、データベース等、島嶼地域科学研究所の最新情報からこれまでに蓄積された研究成果まで幅広いコンテンツを紹介している。2020年度は、[お知らせ] 8件、[イベント情報] 8件を新規掲載した。



島嶼地域科学研究所公式フェイスブック <https://www.facebook.com/RIIS.u.ryukyus/>

島嶼地域科学研究所ウェブサイトで公開した情報をベースに情報を更新している。海外の方向けに、日本語と英語を併記している。2020年度は、20件を新規投稿した。



付属資料

1. RIIS レクチャーシリーズ 2020 ポスター
2. 島嶼研究の未来へ向けて：架橋する国際的若手研究 2021(TFIS2021) ポスター


1. RIIS レクチャーシリーズ 2020 ポスター



講師

グレッグ・ドボルザーク
(早稲田大学・教授)

早稲田大学教授（国際コミュニケーション研究科／国際教養学部）。マーシャル諸島共和国・アメリカ・日本で育つ。専門は、オセアニア地域におけるポストコロニアルな記憶、ジェンダー、軍事主義、抵抗運動とアートなど。現代アートと学術を中心にした草の根ネットワーク、プロジェクトさんごを設立。アジア・パシフィック・トリエンナーレなどのキュレーターとしても活躍。主な著作に『Coral and Concrete: Remembering Kwajalein Atoll between Japan, America, and the Marshall Islands』（University of Hawai'i Press, 2018年）などがある。

Find us on 



RESEARCH INSTITUTE FOR ISLANDS AND SUSTAINABILITY

2020 LECTURE SERIES

2nd lecture

タイトル

「『マーシャル・アイランド』への再上陸
～オセアニアにおける日米の軍国主義と
マーシャル諸島の人々のレジスタンス」

かつての日本軍の戦地であり、1960年代からはアメリカの主要なミサイル実験地であるマーシャル諸島クワジャリン（旧日本軍名：ケゼリン）環礁は、太平洋の過去・現在・未来が共存する場所である。日本とアメリカ間で複合的に植民地化・軍事化されたこの島で重要なのは、マーシャル人のレジスタンス、機知、独創性、強さを持続させてきたパワフルな象徴である点だ。また、沖縄と東京の複雑な関係性のように、アメリカ軍のクワジャリンの土地利用については、430km離れたマーシャル中央政府によって協議されている点も重要である。

今回の講演では、絶え間ない外部勢力からの「侵略」にも関わらず、マーシャル諸島の人々がどのように生き抜き繁栄してきたのか、そして、彼らが「侵略」された土地を自らの土地として「再侵略」する戦いをどう繰り広げてきたかに関して考察する。同時に、気候変動による海抜の上昇がマーシャル諸島全体の土地の存続を危惧させている現状において明らかになってきた新たな問題、疑問、そして可能性を取り上げる。

開催日： 2020年7月20日

時間： 14:40～16:10

言語： 日本語

新型コロナウイルス感染拡大防止の為 Zoom にて開催いたします。事前予約制ですので、下記アドレスまでご連絡ください。



098-895-8475



riis@riis.skr.u-ryukyu.ac.jp

This lecture is part of the Interisland resilience and vitality project funded by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology-Japan.




Research Institute for Islands and Sustainability
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS
1 SENBARU, NISHIHARA, OKINAWA, 903-0213, JAPAN





LECTURER
Juliann Anesi
(Assistant Professor)

Juliann Anesi is an Assistant Professor of Gender Studies at the University of California, Los Angeles. Her research interests include disability and indigeneity, educational policies, and decolonial feminisms. As a community educator and activist, she has also worked with non-profit organizations and schools in American Sāmoa, California, Hawai'i, New York and Sāmoa. Juliann's work has appeared in venues including *Disability and the Global South*, *Women and Social Movements in the United States, 1600 to 2000*; and *Disability & Society*. She is currently at work on a book manuscript, *Tautua: Women's Activism, Education and Disability in Sāmoa*.

Find us on 



**RESEARCH INSTITUTE FOR
ISLANDS AND SUSTAINABILITY**

2020 LECTURE SERIES

3rd lecture

Title

**“Educating in the Margins:
Women’s Activism, Land, and
Including Disabled People in Samoan
Schools”**

The organizing of Aoga Fiamalamalama and Loto Taumafai schools—the first schools on Sāmoa in the 1970s to include disabled students—were due to the commitment of a small group outside of the institutional structures of government. The founding members and women organizers changed the landscape of education for all students in Sāmoa by incorporating disabled and preschool-age students in formal schools. Prior to the creation of the schools, disabled students were omitted from government and private schools. This is also the result of a colonial school system with limited resources to educate the majority of the island’s population. Besides the inadequate resources, a longstanding logics of eugenics along with ableist and moralist perspectives on the type of student worth educating lingered. This talk examines the women organizers’ activism and resistance to the exclusion of disabled children in schools. As many of the organizers emphasized, finding a place or land to establish the schools meant finding “roots” for people with disabilities.

Date: Saturday, September 19, 2020(JST)

Friday, September 18, 2020(PST)

Time: 10:00am-12:00pm (JST)

6:00pm-8:00pm (PST)

Language: English(Sequential Interpretation
Provided in Japanese)

Webinar: RSVP required



098-895-8475



riis@riis.skr.u-ryukyu.ac.jp

This lecture is part of the Interisland resilience and vitality project funded by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology-Japan.



Research Institute for Islands and Sustainability
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS
1 SENBARU, NISHIHARA, OKINAWA, 901-0213, JAPAN





講師


濱田政則 先生

(アジア防災センター センター長
／早稲田大学名誉教授)

大成建設、東海大学、早稲田大学において、地震防災分野の研究と実務に従事。この間、土木学会会長、地域安全学会会長、日本地震工業会会長として、地震防災分野の国内外の研究・開発の促進に貢献。また、日本学術会議 土木工学・建築学委員会委員長として「防災分野の国際協力のあり方」に関する提言を取りまとめ、関係機関に発信した。現在は、アジア防災センターセンター長として、アジア諸国の防災体制の整備、復旧・復興対策を支援している。

【研究業績】

液状化地盤が水平方向に数メートルの方向で変位する現象を定量的に明らかにし、地盤変位の発生要因を解明して、変位の評価方法と対策工法を開発した。現在は、資源エネルギー庁による石油供給高度化事業に参画し、臨海部埋立地のエネルギー施設強靱化の指導を行っている。

Find us on 



RESEARCH INSTITUTE FOR ISLANDS AND SUSTAINABILITY

2020 LECTURE SERIES

4th lecture

タイトル

「自然災害の増大と国土強靱化」

地震・津波による自然被害が世界的に増大している。加えて、地球規模の気候変動に起因していると考えられる集中豪雨などの気象災害が多発している。これらの自然災害の増大に対して、我が国では、2013年に国土強靱化基本法が制定され、交通インフラ、ライフラインおよび港湾・海岸・河川などの防災社会基盤施設の強靱化が進められている。

本講演では、都市圏の埋立地に立地する産業施設を対象として、既往地震による被害、強靱化技術の開発の状況、国による施策の現状および残された課題について述べる。

加えて、地盤の液状化による被害に関連して、大分県別府湾に存在したとされる「瓜生島」の沈没の原因について、海底地盤調査結果などをもとに考察する。

開催日： 2020年12月7日（月）

時間： 10:30～12:00

言語： 日本語

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、Zoomにて開催いたします。事前予約制ですので、下記アドレスまでご連絡ください。



098-895-8475



riis@riis.skr.u-ryukyuu.ac.jp

本レクチャーは、「島嶼地域科学の分野横断型研究展開による国際的共同研究拠点形成」、文部科学省概算要求プロジェクトの一環として開催されます。



RIIS

Research Institute for Islands and Sustainability
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

1 SENBARU, NISHIHARA, OKINAWA, 903-0213, JAPAN



LECTURERS

Dr. Hamsu Kadriyan

(Associate Professor, Mataram University)

Dr. Ernest Gregorio Ernest Jr.

(Assistant Professor, University of the Philippines Manila)

Dr. Crystal Amiel M. Estrada

(Associate Professor, University of the Philippines Manila)

Dr. Jun Kobayashi

(Professor, University of the Ryukyus)

Find us on 



RESEARCH INSTITUTE FOR ISLANDS AND SUSTAINABILITY

2020 LECTURE SERIES

5th lecture

Title

“Mid-Term Report of the Research Entitled ‘Island Resilience during COVID-19 Pandemic’”

Aim of this study is to show whether and how island communities in the Asia-Pacific region-Okinawa, the Philippines, and Indonesia-responded by leveraging their resilience capabilities, and achieved resilience during COVID-19 pandemic.

Date: Tuesday, December 15, 2020

Time: 16:20pm-17:50pm (JST)

Language: English

Webinar: RSVP required



098-895-8475



riis@riis.skr.u-ryukyu.ac.jp

This lecture is part of the Interisland resilience and vitality project funded by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology-Japan.



Research Institute for Islands and Sustainability
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS
1 SENBARU, NISHIHARA, OKINAWA, 903-0213, JAPAN






講師

宮城秋乃 氏

(日本鱗翅学会会員/日本蝶類
学会会員)

昆虫生態学、米軍北部訓練場環境研究。
著書:『ぼくたち、ここにいるよ 高江の
森の小さいのち』(2018年、影書
房)、共著『これが民主主義か?—辺野
古新基地に“NO”の理由』(2021年、影
書房)

Find us on 



RESEARCH INSTITUTE FOR ISLANDS AND SUSTAINABILITY

2020 LECTURE SERIES

6th lecture

タイトル

「北部訓練場返還地の 米軍廃棄物・土壌汚染」

2016年12月、北部訓練場の過半が返還された。日米地位協定で米軍は基地跡地の原状回復義務が免除されているため、沖縄防衛局が多額の予算で支障除去をおこなった。2017年12月、支障除去が完了したとして跡地を地権者に引き渡したが、調査したところ、大量の米軍廃棄物が残留していることがわかった。PCBやDDT類などの化学物質、放射性同位元素コバルト60を含む電子部品も確認された。この地域は2021年、世界自然遺産登録を目指している。

開催日: 2021年2月16日(火)

時間: 16:20~17:50

言語: 日本語

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、Zoomにて開催
いたします。プロジェクトメンバー限定 ※zoomURL
は前日までに別途案内します。



098-895-8475



riis@riis.skr.u-ryukyu.ac.jp

本レクチャーは、「島嶼地域科学の分野横断型研究展開による国際的共同研究拠点形成」、文部科学省概算要求プロジェクトの一環として開催されます。



RIIS

Research Institute for Islands and Sustainability
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

1 SENEARU, NISHIHARA, OKINAWA, 901-0213, JAPAN






講師

黄士哲 先生

(台湾・国立虎尾科技大学総合教育センター副教授／同大学レジャー・レクリエーション学科併任副教授)

研究上の関心は、文化的景観、文化財保護、休憩素養 (Leisure-recreational Competence)、人と環境の関係など。大学では、「技術と社会」、「文化的景観と休憩素養」(ともに、総合教育センター)、「コミュニティ・デザイン」、「地域特性産業」(ともに、レジャー・レクリエーション学科)などの科目を担当。

最近の関連する研究として、新北市黄金博物館が出版するジャーナルや台湾国内でのシンポジウム論文等がある。また現在、大学の社会的責任に関するプログラム、地方自治体の建設コンサルタント、プロジェクト管理計画の共同主催者であり、地方創生と持続可能な開発を進める事業において政府に協力している。

Find us on 



RESEARCH INSTITUTE FOR ISLANDS AND SUSTAINABILITY

2020 LECTURE SERIES

7th lecture

タイトル

「レジリエンスと区域の構造化： 台湾雲林県建國眷村の保全と活性化 の問題について」

1996年、台湾政府は土地利用の効率化を図るために、「国軍旧眷村の再建に関する条例」を公布し、眷村住民の移出を強制的に行い、文化財としての眷村の保護を促した。台湾中部の「建國社區」は、長期にわたる闘争の末、2015年に文化財(集落建築群)に登録され、2016年には国の文化政策である「再造歴史現場」の重要拠点にリストアップされた。現在、同地域は、活性化による変革の重要な段階に直面している。本レクチャーでは、Location概念を通して、眷村コミュニティのレジリエンスと地域の構造化との密接な関係および発展上の問題を考えていく。また、地元の青年グループと大学が地域の活性化に関与することが、眷村コミュニティのレジリエンスを拡大するための重要な鍵となっていることについても考えていく。

開催日： 2021年3月4日(木)

時間： 15:00～16:30

言語： 台湾華語 ※逐次通訳有り

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、Zoomにて開催いたします。事前予約制ですので、下記アドレスまでご連絡ください。



098-895-8475



riis@riis.skr.u-ryukyu.ac.jp



RIIS

Research Institute for Islands and Sustainability
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

1 SENBARU, NISHIHARA, OKINAWA, 903-0213, JAPAN






講師

高 誠晩 先生

(済州大学 社会学科・助教授)

済州4・3研究所、大阪市立大学人権問題研究センター、立命館大学衣笠総合研究機構等をへて、現職。著書に『〈犠牲者〉のポリティクス: 済州4・3/沖縄/台湾2・28 歴史清算をめぐる苦悩』(京都大学学術出版会、2017)など。2019年度より新たに「4・3 社会学」「4・3 研究」といった科目を設けている。

Find us on 



RESEARCH INSTITUTE FOR ISLANDS AND SUSTAINABILITY

2020 LECTURE SERIES

8th lecture

タイトル

「済州島と沖縄における『歴史清算』— 4・3 事件を中心に」

済州4・3事件における「歴史清算」とは、事件がもたらした「負の過去」を乗り越えようとする、過去克服への公式的な取り組みとして、済州4・3特別法(2000年)の名称にある通り「事件の真相究明」や「犠牲者の名誉回復」の達成をめざす公的活動を総括する。その際、「歴史清算」プロジェクトの主たる成果として「4・3犠牲者」が創りだされる。

「犠牲者」の公定化・公式化は必然的に事件にかかわった一人ひとりの死者を細かく選別して「犠牲者」と「犠牲者でないもの(non-victims)」に二分するところから始まる。本発表では、『〈犠牲者〉のポリティクス: 済州4・3/沖縄/台湾2・28 歴史清算をめぐる苦悩』(京都大学学術出版会、2017)とその後に行われた調査にもとづき、沖縄の事情とも比較を行いつつ、「犠牲者」をめぐるせめぎあいの複雑な事象に焦点を当てる。

開催日: 2021年3月5日(金)

時間: 13:00~14:30

言語: 日本語

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、Zoomにて開催いたします。事前予約制ですので、下記アドレスまでご連絡ください。



098-895-8475



riis@riis.skr.u-ryukyu.ac.jp

本レクチャーは、「島嶼地域科学の分野横断型研究展開による国際的共同研究拠点形成」、文部科学省概算要求プロジェクトの一環として開催されます。



RIIS

Research Institute for Islands and Sustainability
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS

1 SENBARU, NISHIHARA, OKINAWA, 903-0213, JAPAN



2. 島嶼研究の未来へ向けて：架橋する国際的若手研究 2021(TFIS2021) ポスター

島嶼研究の未来へ向けて：架橋する国際的若手研究 2021

琉球大学島嶼地域科学研究所は、この度若手研究者を対象とした国際的な研究大会を開催します。本大会は、島嶼地域を対象に最新の研究を行っている若手研究者および様々な現場で活躍している若手（アーティスト・専門家など）のネットワーキングを目的として企画された国際大会です。

開催日：2021年2月23日（火）

時間：10:00～17:00（日本時間）

言語：日本語・英語

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、Zoomにて開催いたします。事前予約制です。下記の参加フォームよりお申込みください。

参加申し込みフォーム：<https://forms.gle/gJuq2tLTEAfLbGax7>

【基調講演】10:00～11:30（通訳あり）

ウエウンテン ウェスリー教授（サンフランシスコ州立大学）

ディアスポラは唄うことができるか？

ーディアスポリックな時空間における「ていんさぐぬ花」ー

【個別報告】

セッション A（13:00～14:30）

《ルーム①：コミュニティ／軍事と環境／歴史清算》 司会：岩間・ダニエル

Oshiro Akino (Friedrich-Alexander-Universität Erlangen-Nürnberg) 英語報告

“Farm to Base: Mobilization of Local Population for Military Work in U.S. Occupied Okinawa”

土井 智義 (日本学術振興会・特別研究員 (東京大学)) 英語報告

“Forgetting the Creation of ‘National Subject’ in Postwar Okinawa: From an ‘Alien’ Perspective”

《ルーム②：防災／コミュニティ》 司会：前田勇樹

比嘉 吉志 (琉球大学大学院／日本学術振興会特別研究員 DC2) 日本語報告

「近世後期の琉球における下知役と間切・村の地域性一家譜資料に所収された褒賞記事の分析を中心に」

山城 彰子 (名桜大学大学院博士後期課程) 日本語報告

「近世琉球の家譜資料における側室的位置づけを与えられる女性一妾・側室」

セッション B（14:45～16:15）

《ルーム①：コミュニティ／軍事と環境》 司会：森啓輔

Matthew Topping (琉球大学人文社会科学部研究科比較地域文化専攻) 英語報告

“Endangered Language Revitalization in Ishigaki under a PAR Framework”

チャンディッタウォン・タナパット (琉球大学人文社会学部客員研究員) 日本語報告

「国民国家の周辺地域の住民意識における首都・本土との距離感—タイ深南部三県と沖縄の事例から」

《ルーム② 歴史清算／保健》 司会：土井智義

佐久本佳奈 (一橋大学大学院) 日本語報告

「ハンセン病文学における沖縄戦と米軍占領の記憶」

松田潤 (一橋大学大学院言語社会研究科韓国学研究所 PD) 日本語報告

「主権を攪乱する統治—近現代沖縄における統治性」

Toward the Future of Island Studies: Networking International Young Scholars 2021

The Research Institute for Islands and Sustainability (RIIS) at University of the Ryukyus will hold an interdisciplinary conference planned for the networking of young researchers conducting contemporary research on the island issues.

Date/Time : February 23rd, 2021 (9:30 AM to 17:00 PM JST)

Language : Japanese and English (partial English interpretation available)

The conference will be held via Zoom to prevent the spread of Covid-19. Advance registration is required.

Registration Form: <https://forms.gle/gJuq2tLTEAfLbGax7>

【Keynote】 10: 00 AM - 11: 30 AM

Dr. Wesley Ueunten (San Francisco State University)

Can the Diaspora Sing?

- Understanding *Tinsagunu Hana* in Diasporic Time and Space -

【Individual Presentation】

Session A (13: 00 PM - 14:30 PM)

<<Room ① : Community/Military and the Environment/Overcoming the Past>> Chair: Daniel Iwama
Akino Oshiro (Friedrich-Alexander-Universität Erlangen-Nürnberg)

Farm to Base: Mobilization of Local Population for Military Work in U.S. Occupied Okinawa (in English)

Tomoyoshi Doi (JSPS Postdoctoral Fellow, University of Tokyo)

Forgetting the Creation of "National Subject" in Postwar Okinawa : From an "Alien" Perspective (in English)

<<Room ② : Disaster Prevention/Community>> Chair: Maeda Yuki

Yoshiyuki Higa (Graduate School of Human and Social Sciences, University of the Ryukyus) (in Japanese)

Gechiyaku Officers and Local Characteristics of Magiri/Mura Administrative Districts in Ryūkyū in the 18th and 19th Centuries: A Study Centered on the Analysis of Articles of Prize Included in Ryukyu Family Lineage Documents

Akiko Yamashiro (Graduate School of International Cultural Studies, Meio University)

「近世琉球の家譜資料における側室的位置づけを与えられる女性—妾・側室」(in Japanese)

Session B (14: 45 PM - 16:15 PM)

<<Room ① : Community/Military and the Environment>> Chair: Keisuke Mori

Matthew Topping (Graduate School of Human and Social Sciences, University of the Ryukyus)

Endangered Language Revitalization in Ishigaki under a PAR Framework (in English)

Tanapat Jundittawong (Visiting Researcher, Faculty of of Humanity and Social Sciences, University of the Ryukyus)

「国民国家の周辺地域の住民意識における首都・本土との距離感—タイ深南部三県と沖縄の事例から」(in Japanese)

<<Room ② : Overcoming the Past/Healthcare>> Chair: Tomoyoshi Doi

Kana Sakumoto (Graduate School for Language and Society, Hitotsubashi University)

“The Memory of Battle of Okinawa and the U.S. Occupation in Hansen's Disease Literature ” (in Japanese)

Jun Matsuda (PD Resaercher The Center for Korean Studies, Hitotsubashi University)

“Governance that Disturbs Sovereignty: Governmentality in Modern Okinawa” (in Japanese)

2020年度 島嶼地域科学研究所 所報

2021年10月1日 発行

編集・発行

国立大学法人 琉球大学

島嶼地域科学研究所

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1

電話:098-895-8475 Fax: 098-895-8308

<http://riis.skr.u-ryukyu.ac.jp/>